



2024年度

学修の手引き

Hiroshima City University

2024 Student Edition Study Guide

情報科学部
Information Sciences

国際学部
International Studies

芸術学部
Arts

目次

人材育成の目標及び各ポリシー

学士課程	2
国際学部	2
情報科学部	4
芸術学部	7

授業等

科目の種類	10
単位	10
授業時間	10
開講区分	10
休講・補講・教室変更	10
自然災害や交通機関の運休時の授業	11
講義等を欠席する場合の手続き	11
担任教員（担当教員）	11

履修

はじめに	12
履修登録	12
履修の禁止	12
履修登録取消制度	13
再履修	13
他学部・他学科履修等	13
履修登録上限単位数	13

試験と成績

はじめに	14
定期試験と随時試験	14
受験時の注意事項	14
不正行為	14
追試験	14
成績評価	14
GPA（Grade Point Average）制度	14
成績発表	15
成績評価に関する異議申立て	15

人材育成の目標及び各ポリシー

学士課程

人材育成の目標

広島市立大学は、豊かな感性と真理探究への情熱を持ち、多様な文化と価値観を尊び、平和を希求する人材、さらに、幅広い知識と確かな専門性を有し、高い倫理観を持って広く社会に貢献できる人材を育成することを目標としています。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

広島市立大学は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の知識・技能・能力を身に付けた上で当該学部が定める審査に合格した学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

- ① 多様な文化・価値観を尊ぶための、人間、社会、自然、平和に関する幅広い教養と知識・技能を有している（知識・技能）
- ② 専門領域に関する体系的な知識・技能を身につけている（知識・技能）
- ③ 発見した問題について論理的に考え、判断することができる（思考力・判断力）
- ④ 自らの考えをわかりやすく表現する能力を身につけている（表現力）
- ⑤ 社会的課題の解決ないしは社会との関わりの中での創作活動に向けて主体的に取り組む姿勢を有している（主体性）
- ⑥ 他者と協働して取り組む姿勢を有している（協働性）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

広島市立大学の学士課程における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程を次のように編成する。

1. 人間、社会、自然、平和に関する幅広い教養と知識・技能を得るため、全学共通系科目を開設する。
2. 多様な文化・価値観に対する理解を深めるのに必要となる外国語によるコミュニケーション能力を養成するため、外国語系科目を開設する。
3. 各学部の理念と専門教育の特色に対応した専門教育科目を開設する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

広島市立大学は、次のような人の入学を求めています。

1. 人間性豊かで、向学心の旺盛な人
2. 知的好奇心と探究心を持ち、知の創造と活用に意欲のある人
3. 世界平和と地域・国際社会の発展に積極的に貢献したい人

国際学部

人材育成の目標

国際学部は、グローバル化の進展など社会が変化する中で、豊かな学識と広い視野に基づいて、グローバルな視点から平和で持続可能な国際社会の実現や地域社会の持続的な発展に貢献できる人材を育成することを教育理念とし、次のような人材を育成します。

1. 人文・社会科学の分野を幅広く系統的に理解し、分野を統合して思考し判断することができる人材
2. 社会が抱える諸課題を自発的に見出し、課題の解決に向かって主体的に取り組むことができる人材
3. 多様な価値観を持った人々と対話し、協働して課題の解決に向かって取り組むことができる人材

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国際学部は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の専門的な知識・技能及びそれらを社会で活用するための資質・能力を身に付けた上で、卒業論文を執筆し審査に合格した学生に対して卒業を認定し、「学士（国際学）」の学位を授与する。

【知識・技能】

1. 人文・社会科学の知見や理論についての系統的な知識を身につけている。（知識）
2. 人文・社会科学の分野をまたいで学際的に探求する技能を身につけている。（技能）

【思考力・判断力・表現力】

1. 人文・社会科学のさまざまな分野に関する知識や理論を基に社会の諸問題を探求することができる。（思考力）
2. 根拠に基づいて論理的に考え判断することができる。（判断力）
3. 自らの考えを説得的に分かりやすく表現する能力を身につけている。（表現力）

[主体性・協働性]

1. 社会が抱える課題を自発的に見出し、取り組む姿勢を有している。(主体性)
2. 世界の中で、多様な背景を持った人々とともに生きる社会を築いていくために、他者と協働する態度を有している。(協働性)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

国際学部が掲げる学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程を次のように編成する。

(全学共通系科目)

- ・幅広い教養・知識の修得を通じ、多様な価値観を尊び平和を希求する精神や感性豊かな人間性を涵養するとともに、グローバル化・情報化等に対応できる能力を身に付けるため、全学共通系科目・外国語系科目を教育課程に組み入れる。

(学際的なカリキュラム編成)

- ・人文・社会科学の分野を幅広く系統的に理解するための学際的なカリキュラムを編成し、分野を統合して思考・判断し、国際社会や地域社会の諸問題を多面的・複眼的に解決できる能力を養成する。

(専門基礎科目)

- ・国際学部における専門分野を学ぶ上で基礎となる知識と技能を修得し、国際学部での学びを展望することを目的に、専門基礎科目を開設する。(1～2年次)

(外国語運用能力を発展させる科目)

- ・実践的な外国語運用能力を身に付け発展させるため、国際学部専門科目として英語特講科目群を開設する。また、英語を含む外国語で授業を行う専門科目を各プログラム科目群や国際研究特講科目群に開設する。(1～3年次)

(専門科目)

- ・専門的な知識・技能を修得し、思考力・判断力・表現力を高めるため、以下のプログラム分野に専門科目を開設する。専門科目では、人文・社会科学の理論や知見を幅広く系統的に理解するとともに、学際的な視野を開くことを目指す。各プログラムには、1年次に入門科目を配置しており、2年次以降の専門科目へのスムーズな導入を図る。(1～3年次)

(1) 国際政治・平和プログラム

紛争、テロ、難民、開発、環境などの地球規模の課題を解決するため、国際関係の理論や歴史、平和研究の方法や実践について学ぶ科目

(2) 公共政策・NPOプログラム

望ましい社会を創造するため、人々の生活の基礎である経済や社会のあり方、市民・NPO・政府などが果たす役割について学ぶ科目

(3) 多文化共生プログラム

国家、地域、民族、文化の垣根を越えて、多様な考え方を持つ人々との共生に関する理論や実践について学ぶ科目

(4) 国際ビジネスプログラム

経営学や経済学上の諸問題など、国際的な視点からビジネスについて学ぶ科目

(5) 言語・コミュニケーションプログラム

人間の社会的営みの基礎である言語・コミュニケーションに関する諸問題を学ぶ科目

(演習科目、卒業論文)

- ・発表や討論などの主体的な学修を重視する少人数双方向での演習科目を、1年次から4年次まで継続して開設する。自らのテーマを多面的に追究するため、3年次には複数の専門演習の履修を可能とする。各年次の演習は、国際学部における学修の集大成としての卒業論文に有機的につなげる指導と結び付ける。

- (1) 国際学部における学びに必要な知識・技能や協働性に加え、関心・意欲を持って学び続ける態度を身に付ける基礎演習（1年次）
- (2) 専門分野を見極め、論理的な思考力・判断力・表現力に磨きをかける発展演習（2年次）
- (3) 専門性を磨き、応用力を養うための専門演習（3年次）
- (4) 自らのテーマを専門的かつ総合的に追究し、学修の集大成として卒業論文を執筆する卒論演習（4年次）

(少人数教育)

- ・演習や各授業クラスを少人数で編成し、対話を通じた主体的で深い学びを推進するとともに、少人数教育ならではの濃密できめ細かな指導を行う。

(キャリア教育)

- ・各学年の演習科目では、各自の学修プランを基に、実社会において求められるスキルやコミュニケーション能力、社会人としての資質を育み、学生のキャリア形成を支援する。

(グローバル人材育成)

- ・グローバルな視点から国際社会や地域社会に貢献できる能力を養成するため、海外学術交流協定大学への学生派遣や短期語学留学、海外インターンシップなど、国際感覚を養う教育活動への学生の参加を促進する。

(地域志向人材育成)

- ・地域に愛着・誇りを持ち、地域に根ざした視点から、その発展に貢献する人材を育成するため、地域再生や地域の課題解決を実践的に試行する科目などの地域志向科目を開設する。

(評価)

- ・上記科目における知識量、理解度、能力については、客観的な指標、学習及び発表に関わる成果物などを利用して総合的に評価を行い、教育課程を継続的に評価・検証する。
- ・専門科目のプログラム科目群の1つで、所定の単位数を修得した場合、当該プログラム領域を主専攻として専門に履修したことを認定する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

複雑化する国際社会及び地域社会においては、単一の学問分野のみならず、領域を超えた幅広いアプローチから課題の解決に取り組むことが必要です。

国際学部では、豊かな学識と幅広い視野に基づいて、平和で持続可能な国際社会や地域社会の実現に貢献できる人材の育成を教育理念としています。

そのため、国際学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような多様な人物を求めています。

[求める人物像]

(関心・意欲)

国際社会や地域社会が抱える課題に関心を持ち、かつその解決に意欲を持つ人。

(知識・技能)

国際学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき現代社会についての基本的な知識・教養を持っている人。また、外国語を含む言語の基本を修得し、基本的な運用能力を身に付けている人。

(思考力・判断力・表現力)

- ・社会の諸課題について、根拠に基づいて筋道を立てて考え、自分の意見をまとめることができる人。
- ・日本語と外国語を使って、自分の考えを分かりやすく表現できる人。

(主体性・協働性)

- ・何事にも主体性を持って行動し、海外留学やさまざまな活動に積極的に関わる意欲を持つ人。
- ・国際社会や地域社会における人間の営みに関する諸課題の解決に向けて、さまざまな意見を持つ人とも対話し、協働する姿勢を持つ人。

情報科学部

人材育成の目標

情報科学部は、以下の専門分野における基本的な知識・技能を基に、高度情報化社会を支え創造していくことができる人材を育成します。

[情報工学分野]

コンピュータやネットワークなどの情報基盤技術に関する分野

[知能工学分野]

人工知能を支える数理、知識情報処理、ソフトウェア技術に関する分野

[システム工学分野]

情報システム全体の調和と協調を図った創造的なシステム化技術に関する分野

[医用情報科学分野]

情報科学・自然科学・工学を基に、医用、生命、環境などへの活用技術に関する融合分野

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

情報科学部は、下記に挙げる3つの観点における能力を修得した者に対して卒業を認定し、次に示すように、修得した内容に応じて「学士（情報科学）」または「学士（情報工学）」を授与する。

- ・学士（情報科学）：情報科学における真理の探究に必要となる能力を主に修得した者
- ・学士（情報工学）：情報科学の利活用による課題解決に必要となる能力を主に修得した者

[知識・技能]

1. 多様な文化・価値観を尊ぶための人間、社会、自然に関する幅広い知識を身に付けている。(知識)
2. 情報科学または情報工学における技術者や研究者に求められる基本的な知識を身に付けている。(知識)
3. 情報科学または情報工学の課題に取り組み、結果や考察を理論的に記述することができる。(技能)
4. 国際的なコミュニケーションのための基礎的な語学力を身に付けている。(技能)

[思考力・判断力・表現力]

1. 情報科学または情報工学における知識・技能に基づき、論理的・合理的に思考・判断することができる。(思考力・判断力)
2. 技術者・研究者として自分の考えを分かりやすくプレゼンテーションすることができる。(表現力)

[主体性・協働性]

1. 情報科学の切り口から真理の探求または社会的課題の解決に向けて主体的に取り組むことができる。(主体性)
2. 多様な価値観や新たな技術・知見を受け入れ、課題の解決に向けて協働して取り組むことができる。(協働性)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

情報科学部が掲げる学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程を次のように編成する。

(全学共通系科目)

- ・幅広い教養・知識の修得を通じ、多様な価値観を尊び平和を希求する精神や感性豊かな人間性を涵養するとともに、グローバル化・情報化等に対応できる能力を身に付けるため、全学共通系科目・外国語系科目を教育課程に組み入れる。

(情報科学系・情報工学系科目)

- ・急速に発展する情報通信技術（ICT）に適応しながら次世代の情報化社会を創造する人材を育成するため、情報科学、情報工学、計算機科学、計算機工学とその応用を修得する次の2系統の科目を学部共通科目・専門基礎科目・専門科目のそれぞれに編成する。

- (1) 情報科学系科目：高度情報化社会を支える技術の基盤となる自然科学とその応用に関する科目
- (2) 情報工学系科目：高度情報化社会を実現するために必要な知識と基礎技術及びその応用に関する科目

(数学、プログラミング及び英語の重点的な教育)

- ・情報科学または情報工学を学ぶ上で特に重要な基礎科目である数学、プログラミングは1～2年次に、英語は1～3年次に重点的な教育を行う。教育にあたっては、コンピュータ及び情報関連機器を用いた情報処理能力が身に付くように、継続的に情報機器の利用とそれによる学習が可能になるように配慮する。また、英語教育については、一般的な内容から専門分野における内容まで学習できるように科目を配置する。

(学部共通科目)

- ・情報科学または情報工学の基礎的・普遍的な知識・技能を修得するため、学部共通科目を開設する。また、学部共通科目を履修した上で、学生一人ひとりの興味関心、適性に基づいて専門分野を適切に選択できる仕組みを導入する。

(専門基礎科目)

- ・各学科の専門分野における基礎的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を修得するため、情報科学及び情報工学に関する専門基礎科目を主に2年次に開設する。
 - (1) 情報工学科：技術者や研究者に求められる情報工学の基本的な知識が身に付くように、コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション基盤の分野を横断した内容の科目を2・3年次に配置する。
 - (2) 知能工学科：知識情報処理、メディア情報処理、及びそれらに関連する数理を中心とした知能工学全般に共通して必要な能力を身に付けるための専門基礎科目を2年次に配置する。
 - (3) システム工学科：システム工学科では、情報システム全体の調和と協調を図った創造的なシステム化技術を学ぶ。それに必要となる数学・情報・工学に関する基礎的な科目を2年次に配置する。
 - (4) 医用情報科学科：医用情報科学または医用情報工学分野などの異分野融合領域を支える3つの普遍的学問領域（情報系科目、工学系科目、自然科学系科目）を専門基礎として開設する。

(専門科目)

- ・各学科の専門分野における専門的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を修得するため、情報科学及び情報工学に関する専門科目をそれぞれ主に3年次に開設する。
 - (1) 情報工学科：3年次にコンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション基盤の各分野における専門性を高める専門科目を配置する。

- (2) 知能工学科：知識情報処理、メディア情報処理、及びそれらに関連する数理を中心とした各知能工学分野の専門的な能力を身に付けるための専門科目を3年次に配置する。
- (3) システム工学科：体系的に専門知識が身に付くようにシステム基礎、ロボット・人間共生、インタフェースデザインの各専門系列科目を3年次に配置する。
- (4) 医用情報科学科：専門基礎科目を土台として、3つの普遍的学問領域（情報系科目、工学系科目、自然科学系科目）を医用、生命、環境などへ応用展開する医用情報科学系科目を開設する。

(実験科目、卒業研究)

- ・実験、演習、口頭発表などの体験的・総合的な学修を重視した以下の科目を開設する。
 - (1) 学部共通科目で習得した知識を具体的な問題に適用する能力を育成する実験科目
 - (2) 専門基礎科目・専門科目で習得した知識を具体化させ、思考力・洞察力を養い、実際の問題・課題を解決する能力を育成する実験科目
 - (3) 研究に対する方法論、問題解決力を身に付け、研究の成果・意義・有用性を論理的にまとめ、発表・討論する能力を育成する以下の2種類のテーマでの卒業研究
 - ・情報科学・自然科学における真理の探究を目的としたテーマ
 - ・情報科学の利活用による課題解決を目的としたテーマ

(学生の多様化への対応)

- ・少人数教育、習熟度別のクラス編成、主体的・対話的で深い学びの推進などにより、知識や学力の多様化した学生に対して効果的な教育を行う。

(キャリア教育)

- ・技術者・研究者としての使命感・倫理観の養成、実社会において求められるスキルやコミュニケーション能力、社会人としての資質を育み、学生のキャリア形成を支援する科目を1～3年次に開設する。

(グローバル人材育成)

- ・技術者・研究者としてグローバルに活躍できる能力を養成するため、海外学術交流協定大学への学生派遣や短期語学留学、海外での研究発表など、国際感覚を養う教育活動への学生の参加を促進する。

(地域志向人材育成)

- ・地域に愛着・誇りを持ち、地域に根ざした視点から、その発展に貢献する人材を育成するため、情報科学を用いた地域振興や地域の課題解決を実践的に試行する科目などの地域志向科目を1～3年次に開設する。

(評価)

- ・上記科目における知識量、理解度、能力については、客観的な指標、学習及び発表に関わる成果物などを利用して総合的に評価を行い、教育課程を継続的に評価・検証する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

科学技術の発展による高度情報化社会の到来に伴い、我が国を取り巻く産業・社会構造は年々複雑化し続けています。

情報科学部では、このような複雑化する社会に対応するため、情報工学・情報科学分野の基礎知識・能力及び専門学識・技術を身に付け、高度情報化社会を支える人材の育成を教育理念としています。

そのため、情報科学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような多様な人物を求めています。

[求める人物像]

(関心・意欲)

情報工学・情報科学に関心があり、自ら積極的に情報工学・情報科学を学修する意欲を持つとともに、学んだことを活用して国際社会や地域社会の発展に貢献したいという大志を抱いている人。

(知識・技能)

情報工学・情報科学を学ぶ上で土台となる高等学校等で修得すべき数学、理科及び語学の知識・技能を有している人。

(思考力・判断力・表現力)

- ・物事を多面的にとらえ、論理的・合理的に思考して判断することができる人。
- ・自らの考えを分かりやすく説明するよう努力できる人。

(主体性・協働性)

- ・情報科学の切り口から真理の探究または社会的課題の解決に向けて主体的に取り組む熱意を持っている人。
- ・多様な価値観や新たな技術・知見を受け入れ、課題の解決に向けて協働して取り組む熱意を持っている人。

人材育成の目標

芸術学部は、創造性、先見性及び独創性に富み、文化芸術の創造及び発展に貢献できる人材を育成することを教育理念とし、次のような人材を育成します。

1. 美術、デザイン・工芸に関する専門性の高い知識と技術を基に、創造性に富んだ創作と先見性、独創性に富んだ表現・研究を発信できる人材。
2. 美術、デザイン・工芸に関する専門性の高い知識と技術を基に、地域や産業などさまざまな社会分野において、文化芸術の創造及び発展に貢献できる人材。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

芸術学部では、所定の期間在学中に、所定の単位を修得し、卒業制作を行い、審査に合格した学生に対して卒業を認定し、「学士（芸術）」の学位を授与する。なお、学生が卒業までに求められる3つの観点の能力を次に挙げる。

〔知識・技能〕

〈美術学科〉

以下のいずれか1つの専攻における専門的な知識・技能を有している。

（日本画専攻）

1. 日本画における伝統的な絵画表現の知識を身に付けている。（知識）
2. 日本画に関する独創的な創作をする技能を身に付けている。（技能）

（油絵専攻）

1. 油絵における西洋の伝統的な絵画表現の知識を身に付けている。（知識）
2. 油絵に関する独創的な創作をする技能を身に付けている。（技能）

（彫刻専攻）

1. 彫刻における伝統的な表現の知識を身に付けている。（知識）
2. 現代における独創的な創作をする技能を身に付けている。（技能）

〈デザイン工芸学科〉

現代表現、視覚造形、映像メディア造形、立体造形、金属造形、染織造形、漆造形のいずれか1つの分野における専門的な知識・技能を有している。

1. デザイン工芸の各分野における歴史的変遷を理解している。（知識）
2. 社会や生活に関わる作品を創作するための造形技術を身に付けている。（技能）

〔思考力・判断力・表現力〕

1. 次代の文化芸術を創造するために、柔軟に想像したものを論理的に構想することができる。（思考力）
2. 創作過程における問題に対して、効果的な解決策を見出すことができる。（判断力）
3. 作品と言葉によって、創作に込めた自らの考えを的確に他者や社会に伝えることができる。（表現力）

〔主体性・協働性〕

1. 社会との関わりの中で、自らの感性を創作に生かそうとする姿勢を有している。（主体性）
2. 自らの創作を通じて、他者と協働する姿勢を有している。（協働性）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

芸術学部が掲げる学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程を次のように編成する。

（全学共通系科目）

- ・幅広い教養・知識の修得を通じ、多様な価値観を尊び平和を希求する精神や感性豊かな人間性を涵養するとともに、グローバル化・情報化等に対応できる能力を身に付けるため、全学共通系科目・外国語系科目を教育課程に組み入れる。

（芸術学部のカリキュラム編成）

- ・学位授与の方針に掲げる基準を達成させるため、各学科・専攻に関わる基礎的な知識や技能を修得できる科目（専門基礎科目）と、専門知識や独創的な表現を修得できる科目（専門科目）を体系的に配置する。専門科目では、学年に応じて、実習・演習を段階的に配置し、創作の基礎力、応用力、展開力を養う教育を行う。

（専門基礎科目）

- ・主に1・2年次で、芸術の理論、歴史、技術や素材等に関する基礎的な知識・技能を身に付けるための科目を配置する。

(専門科目)

- ・専門的な知識・技能を段階的に学び、思考力・判断力・表現力を身に付け、創作を通じて主体性、協働性を養うための実習・演習を主とした科目を配置する。3年次では国内外の古典芸術について事前調査・実地研究を行い、より専門的な知見を深めるための科目として、「古美術研究」を配置する。4年次では主体的に創作を行い、プレゼンテーション能力を含む表現力を修得するための科目として、「卒業制作」を配置する。

[美術学科日本画専攻]

- ・1・2年次では絵画表現の基礎となる観察力、描写力、技法材料への知識を身に付けるための科目を配置する。
- ・3年次には1・2年次で養った基礎力を各課題で反復応用し、独創性を涵養するための科目を配置する。
- ・4年次にはこれまでに修得した創作能力を活かし、幅広い知識とプレゼンテーション等を含む絵画の表現力と、他者との協働性を身に付けるための科目を配置する。

[美術学科油絵専攻]

- ・1・2年次では絵画表現の基礎として、観察力と描写力を主とした造形及び創作を行う知識・技能を身に付けるための科目を配置する。
- ・3年次には1・2年次の習作を通して養った能力を、自身の表現へ昇華させるための科目を配置する。また、他者と協働できるよう、プレゼンテーション能力を身に付けるための科目を配置する。
- ・4年次にはこれまでに修得した知識・技能・思考力・判断力・表現力を、独創性へと高めるための科目を配置する。

[美術学科彫刻専攻]

- ・1・2年次では、彫刻表現の基礎となる造形力及び彫刻制作の知識・技能を身に付けるための科目を配置する。
- ・3年次では1・2年次に養った造形力と知識・技能を用い、他者と協働しながら自身の考えを作品として表現する応用力を身に付けるための科目を配置する。
- ・4年次にはこれまでに修得した造形力及び知識・技能を深め、プレゼンテーション能力を含む創作者としての展開力を身に付けるための科目を配置する。

[デザイン工芸学科]

- ・1年次では、デザイン工芸で必要となる能力のうち、知識、技能及び思考力を中心としてその基礎を身に付けるための科目を配置する。
- ・2年次では、学生の指向性と7つの専門分野を対応させ、各分野における専門的な知識、技能及び思考力を身に付けるための科目を配置する。
- ・3年次では、2年次までに養った能力をさらに発展させ、創作に必要な判断力や表現力、主体性を身に付けるための科目を配置する。また、グループ展の企画・運営を通じて、協働性を涵養するための科目を配置する。
- ・4年次では、これまでに修得した能力を統合的に応用し、作品を制作する表現力と、作品制作から展示までの過程を通じて主体性、協働性を高めるための科目を配置する。

(キャリア教育)

- ・芸術の専門的な知識・技能を生かして社会で活躍できる能力を養成するため、専門科目の中で学生のキャリア形成を支援する教育を行う。

(グローバル人材育成)

- ・グローバルな視点に立った創作を行うことができるよう、海外学術交流協定大学への学生派遣や短期語学留学など、国際感覚を養う教育活動への学生の参加を促進する。

(地域志向人材育成)

- ・地域に愛着・誇りを持ち、地域に根ざした視点から、その発展に貢献する人材を育成するため、芸術による地域振興や地域の課題解決を実践的に試行する科目などの地域志向科目を配置する。

(評価)

- ・上記科目における知識、技能、表現力については、卒業制作などから総合的に評価を行い、専門教育課程を継続的に評価・検証する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

国際化や情報化の急激な進展などにより社会の急速な変化や価値観の多様化が進む中、社会に豊かさをもたらす芸術の社会的役割はますますその重要性を高めています。

芸術学部では、創造性に富んだ創作を行うための専門的な知識と確かな技術を備え、文化芸術の創造及び発展に貢献できる先見性、創造性及び独創性に富んだ人材の育成を教育理念としています。

そのため、芸術学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような多様な人物を求めています。

[求める人物像]

(関心・意欲)

芸術に関心があり、創作・表現に意欲を持ち、創作を通じて国際社会や地域社会の発展に貢献したいと考えている人。

(知識・技能)

高等学校等で習得すべき知識・技能を持ち、創作・表現を学ぶための基礎的な技術・感性を備えている人。

(思考力・判断力・表現力)

関心を持ったことを深く思考し、自らの考えを作品や言葉によって表現できる人。

(主体性・協働性)

創作、協働に対して積極性、主体性を持って取り組み、創作を通じて国際社会や地域と関わりたい人。

授業等

科目の種類

授業科目は講義、演習、実験、実習、実技などに区分され、それぞれ授業時間や単位数が異なります。また、大学からの説明では、科目の性質によって以下のように区分されることがありますので、よく理解しておくようにしましょう。授業科目の詳細は教育課程《2024年度入学生版》を参照してください。

- ◆ 必修科目
卒業のために必ず取得しなければならない科目です。
- ◆ 選択科目
複数の科目の中から、いくつかを選択することのできる科目です。卒業要件（教育課程《2024年度入学生版》）をよく理解したうえで選択する必要があります。
- ◆ 自由科目
興味関心に応じて自由に選択することのできる科目です。例えば、資格取得関係科目が該当します。卒業要件単位には数えられませんので注意してください。

単位

それぞれの授業科目には単位数が決められています。
1単位を修得するためには、教室内での授業等の時間及び教室外での自主的な学修時間、合わせて45時間の学修をする必要があります。なお、45時間のカウントについては、講義、演習、実験、実習、実技によって原則的に次のようになっています。

区 分	大学の授業での学修時間	授業時間外の自主的な学修時間	合 計
講 義	15 時間	30 時間	45 時間
演 習	30 時間	15 時間	45 時間
実 験 実 習 実 技	30～45 時間	0～15 時間	45 時間

授業時間

日々の授業は次の時間に行われます。

1 時限	9 : 00	～	10 : 30
2 時限	10 : 40	～	12 : 10
3 時限	13 : 00	～	14 : 30
4 時限	14 : 40	～	16 : 10
5 時限	16 : 20	～	17 : 50
6 時限	18 : 00	～	19 : 30

注) 6時限は補講用で、通常の授業は行いません。

開講区分

本学は2学期制（セメスター制）と各期をさらに半分に分けた4学期制（クォーター制）を併用して授業を開講しており、授業科目は開講区分により、次のように分けられます。

通年科目	年間を通して開講
前期科目	前期半年間に開講
第1ターム科目	前期半年間の前半に開講
第2ターム科目	前期半年間の後半に開講
後期科目	後期半年間に開講
第3ターム科目	後期半年間の前半に開講
第4ターム科目	後期半年間の後半に開講
集中講義科目 ※	特定の期間に集中して開講

※ 基本的には、前期又は後期に開講する授業科目ですが、諸般の理由により集中開講となるものです。

通 年			
前 期		後 期	
第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム

- ◆ 2学期制（セメスター制）
セメスター制では、週1コマ×16週（試験を含む）を基本とします。英語以外の外国語系科目のような演習科目のほか、実験・実習・実技科目は、単位数によって週2～3コマ×16週で開講されることもあります。
- ◆ 4学期制（クォーター制）
4学期制（クォーター制）では、科目の特性や学修効果により、次のパターンがあります。
(1) 週2コマ×8週（試験を含む）
月曜日1コマと水曜日1コマなどで2コマ、火曜日の1、2限連続などで2コマ等、週2回授業を行います。
(2) 週1コマ×8週（試験を含む）
これまでのセメスター科目を二つに分ける場合で、単位数も半分にになります。

休講・補講・教室変更

休講・補講・教室変更がある場合には、大学事務局や教員から連絡がありますので、大学付与のメールアドレスへのメールなどを必ずチェックしてください。

自然災害や交通機関の運休時の授業

暴風雨などの自然災害やストライキ等によって公共交通機関の運行に支障が生じたり、そのおそれがある場合は状況に応じて授業を休講とする場合があります。その取扱いは次のとおりとします。

1 授業の実施が困難な場合の判断基準

- (1) 広島地方気象台から広島市安佐南区に暴風警報、暴風雪警報又は気象等に関する特別警報のいずれかが発表された場合
- (2) 暴風雨などの自然災害やストライキ等により、ア又はイが発生した場合
ア アストラムライン及び高速4号線を通過する広島電鉄バスの双方が全面的に運行停止
イ JR山陽本線において広島駅又は横川駅を含む区間が運行停止

2 休講の取扱い

- (1) 授業開始後に上記1のいずれかの事由が発生した場合は、その後に開始される授業を休講にします。
- (2) 授業開始前に上記1のいずれかの事由が発生している場合は、発生した時間により次のとおり休講とします。
 - 午前7時の段階で上記1の事由が発生している場合は、午前中の授業は休講
 - 午前10時の段階で上記1の事由が継続している場合は、午後の授業もすべて休講

3 避難情報の「警戒レベル」について

災害が発生し、または発生するおそれがある場合に、自治体から発令される避難情報の「警戒レベル」は、休講の判断基準となりませんが、本学・自分の居住地域・通学途上の地域に『避難指示』（警戒レベル4）以上が発令されている場合は、自分や家族の身の安全を最優先に考え、授業に出席するか欠席するかを判断してください。

欠席しても、「欠席扱い」とはなりませんので、後日、担当教員に事情説明を行い、授業の指示を仰いでください。（定期試験の場合は、1週間以内に「追試験受験願」を教務グループに提出してください。）

なお、本学は安佐南区の「緊急避難場所」に指定されています。

4 その他

上記1の判断基準に該当しない自然災害（地震など）及びそれに伴う公共交通機関の運行停止などが発生した場合の休講等についてはその都度お知らせします。

講義等を欠席する場合の手続き

病気やケガによる入院等、やむを得ない事情により講義等を欠席する場合は、その講義等の担当教員まで申し出てください。なお、感染症にかかった場合は以下のリンクから確認してください。

<https://hiroshima-cu.ac.jp/campuslife/content0069/>

担任教員（担当教員）

大学生活で困ったことがあった場合に相談ができる、担任教員制度を設けています。

各学部の担任教員は次のとおりです。

学 部	担任教員
国際学部	1年 基礎演習担当教員 2年 発展演習担当教員 3年 専門演習担当教員 4年 卒論演習担当教員
情報科学部	1年 各クラスのチューター 2年～講座配属まで 各学科のチューター 講座配属後 各講座の教員
芸術学部	各学科専攻の教員

※詳細は、別途お知らせします。

履修

はじめに

履修とは、卒業に必要な授業科目を受講し単位を修得することを意味します。履修する科目は、以下の資料を参考にしながら決定してください。4年間で何を、どう学びたいかを考えながら計画的に履修しましょう。

- ◆ 教育課程表（教育課程《2024年度入学生版》）
学位を取得する（卒業する）ために学部・学科ごとに提供されている授業科目を表にしたものです。入学年度により内容は異なります。
- ◆ カリキュラムマップ（Web公開）
ディプロマ・ポリシー（2～8ページ）と各授業科目との関連性を示した表です。各授業科目が卒業までに身につけるべき能力のどの項目と関連するのかが分かります。
- ◆ カリキュラムツリー（シーケンス）（教育課程《2024年度入学生版》）
各授業科目の関連性や対象年次、学修の順序などを図示したものです。教育課程（カリキュラム）全体を把握し、4年間の履修計画を立てる手掛かりになります。
- ◆ 時間割表及び集中講義日程表（Web公開）
各授業科目の時間割表及び集中講義日程表はWebで公開されます。履修したい科目どうしの時間割が重複しているなど、時間割上の制約がある場合がありますので、先を見通して計画的に履修しましょう。
- ◆ シラバス（Web公開）
各授業科目の到達目標や授業計画、内容、成績評価基準などを示したものです。その授業科目で何が学べるのか、何が身につくのかを知ることができます。
また、授業科目を履修する上でのルールが示されているので、十分に理解しておくようにしましょう。

履修登録

履修登録とは、履修しようとする科目を登録し、単位を修得するための必須の手続きです。これを怠ったり誤ったりすると単位が認定されません。登録内容の誤りなどにより進級や卒業ができなくなっても、自身の責任となります。

以下の流れで手続きを行いますので、上述の資料や大学からの連絡事項に十分注意して、間違いのないように履修登録を行ってください。

(1) 履修登録期間

履修登録はWeb上から手続きを行います。指定の期間に正しく登録してください。なお、学年により登録できる科目が異なりますので注意してください。

1～3年生：学期ごとに履修科目を登録

4年生：前期に前期・後期両方の履修科目を一括登録

(2) 履修確認期間

履修確認期間は（1）の期間に登録した科目を訂正（追加・削除）できる期間です。自身の確認不足による登録誤りは、履修確認期間以降に訂正することができません（後述の履修登録取消制度で取消しをする場合を除く）ので注意してください。

科目種別	2024年度 日程	
	履修登録	履修確認
前期科目 (第1ターム科目・第2ターム科目を含む)	4月3日(水)～ 4月12日(金) 17時	4月22日(月)～ 4月24日(水) 17時
後期科目 (第3ターム科目・第4ターム科目を含む)	9月24日(火)～ 10月7日(月) 17時	10月16日(水)～ 10月18日(金) 17時

(3) 履修確定

(1)、(2)の期間を経て履修登録内容を確定します。前期は5月上旬、後期は10月下旬頃を予定しています。履修確定後、4年生で卒業が見込まれる場合には、卒業見込証明書が発行できるようになります。

◆ 履修登録に関する相談

履修登録について分からないことや迷うことがあるときは、そのままにせず担任教員（11ページ）や事務局教務グループに相談しましょう。

また、履修登録期間中には、学生が履修登録に関する相談に応じるブースを設けています。教職課程を履修している学生や大学院生など、経験豊富な学生からアドバイスが受けられます。気軽に利用してください。

履修の禁止

次に掲げる授業科目は履修することができません。

- ◆ 履修登録をしていない授業科目
- ◆ 既に単位を修得した科目

履修登録取消制度

いったん履修登録を確定させた授業科目について、履修登録を取り消すことができる制度です。授業の内容が自分の勉強したいものと違っていた、授業に対する知識が不足していることに気付いた、学修時間を確保するために履修科目数を減らしたい、といった場合には、履修登録取消期間内（科目の開講区分ごとに定める）に手続きを行いましょう。ただし、必修科目や取り消しができないとシラバスに明記された科目は、対象外です。

<履修登録取消期間>

科目種別	期間の考え方等	2024年度の日程
前期科目、後期科目、通年科目	当該科目の履修登録期間終了日から4週間が経過した後の土日祝を除く3日以内	前期 5月20日(月)～22日(水) 17時 後期 11月6日(水)～8日(金) 17時
ターム科目	授業開始から2週間が経過した後の土日祝を除く3日以内（履修確認期間に手続きが必要）	第1ターム 4月22日(月)～24日(水) 17時 第2ターム 6月24日(月)～26日(水) 17時 第3ターム 10月16日(水)～18日(金) 17時 第4ターム 12月11日(水)～13日(金) 17時
集中講義科目	当該科目の初回授業日の2週間前まで（以降の取消期間内での取消不可）	—

（この制度は、GPA制度の導入に伴って設けられた制度です。GPA制度の詳細については14ページをご覧ください。）

できる単位数の上限を24単位と定めています。ただし、自由科目及び資格取得関係科目（教育課程《2024年度入学生版》）、長期休業期間（夏季休業、学年末休業）に実施される集中講義科目は、履修登録上限の対象としません。

※CALL英語集中、eラーニング英語を含む、前期・後期授業期間中に実施される集中講義については、履修登録上限単位数に含めます。

<成績優秀者の特例>

情報科学部では、早期卒業適格認定者等、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた学生は、上限を超えて履修登録することができます。（早期卒業制度については、19ページをご覧ください。）

再履修

単位の修得が認められなかった授業科目について、次年度（又は次学期）に再履修することができます。ただし、再履修に当たっては、担当教員の承認が必要となる場合があります。

他学部・他学科履修等

所属する学部以外の学部開設されている全学共通系科目あるいは所属する学部・学科・専攻以外の専門教育科目の履修を希望する場合は、授業科目の担当教員等の承認が必要となるなど、所定の手続きがありますので、教務・学部運営室教務グループに相談してください。

履修登録上限単位数

学修における予習・復習の時間を十分に確保し、一つひとつの授業科目の理解を深めるために、1学期に履修登録

試験と成績

はじめに

授業科目の単位の認定は、原則として試験によって行われます。ただし、授業科目によっては担当教員の判断によって、レポートあるいはその他の課題を課すことにより試験に替える場合があります。なお、この場合原則として出席回数が授業実施回数の3分の2以上なければ、評価の対象外となります。

定期試験と随時試験

- ◆ 試験は学期末等に期間を定めて実施する定期試験と、授業期間中に随時行う試験があります。
- ◆ 定期試験は、原則として出席回数が授業実施回数の3分の2以上なければ、当該授業科目の試験を受けることができません。

受験時の注意事項

- ◆ 定期試験の際は座席を指定する場合があるので、早めに入室して自分の座席を確認してください。
- ◆ 受験の際は、担当教員の指示に従ってください。教員が指示したものの以外は机の上に置くことはできません。
- ◆ 受験の際は、机上番号札の手に学生証を置いてください。
- ◆ 学生証を忘れた場合は、試験開始までに教務・学部運営室教務グループで仮学生証の交付を受けてください。
- ◆ 原則として試験開始後20分以内の遅刻に限り受験を認めます。ただし、試験時間の延長は行いません。

不正行為

試験におけるカンニングや成績評価の対象となるレポート課題の剽窃行為（他人の文章等の盗用）などの不正行為を行った者には厳重に対処します。不正行為を行った場合は、原則としてその学期に履修した授業科目の全科目を不合格とする処分を行います。

追試験

定期試験を欠席した者に対しては特別な救済措置は行いません。ただし、以下に掲げる理由により、やむを得ず受験できなかった者は、受験できなかった理由を証明する書類を添え、追試験の申請を行うことができます。

- ◆ 本人の病気又は怪我
- ◆ 事故や自然災害等による公共交通機関の遅延
- ◆ 2親等以内の親族の葬儀への参列
- ◆ その他やむを得ない理由と副学長（教育・学生支援担当）が認めたもの

なお、追試験の実施日については原則として、欠席した試験日から3週間以内となっています。申請は欠席した試験日から1週間以内ですので追試験の実施を希望する場合は、速やかに教務・学部運営室教務グループに相談してください。

成績評価

- ◆ 成績は、試験、実技、実習、レポートの成績及び授業等への参加状況を総合して評価します。
- ◆ 成績の表示は次のとおりとし、秀、優、良、可を合格とし、所定の単位が与えられます。

評価	評点（試験等の得点）	GP	合 否
秀	90点～100点	4	合 格
優	80点～89点	3	
良	70点～79点	2	
可	60点～69点	1	
不可	59点以下	0	不 合 格

※定期試験を受験していない場合、定期試験に代わるレポート課題を提出していない場合又は出席回数が授業の3分の2に満たない場合は、「不可*」と表示します。

- ◆ 評価の内容
秀・・・科目の到達目標を十分達成し、到達目標を超えた極めて優秀な成果をおさめている。
優・・・科目の到達目標を十分達成している。
良・・・科目の到達目標を達成している。
可・・・科目の到達目標を最低限達成している。
不可・・・科目の到達目標を達成していない。

GPA (Grade Point Average) 制度

本学では、学生の皆さんの成績評価にあたって、GPA制度を導入しています。GPA制度は、Grade Point Average制度の略称で、米国をはじめ諸外国の大学で採用されている国際的な成績評価システムであり、日本においても多くの大学で採用されているものです。

GPA制度は、成績評価を受けた授業科目ごとの5段階評価を4から0までの点数（GP：Grade Point）に置き換えて単位数を掛け、その総和を成績評価を受けた授業科目の単位数の合計で除して得られる1単位当たりの平均値です。ただし、自由科目は算定に含めません。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{成績評価を受けた授業科目のGP} \times \text{当該授業科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{成績評価を受けた授業科目の単位数の合計}}$$

成績発表

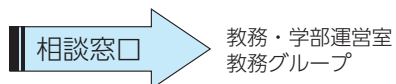
成績は、確定次第大学のポータルサイトで確認することができます。ただし、成績証明書への記載は学期末になります。各学期の初めには、前の期の成績表をポータルサイトからダウンロードすることができます。

成績評価に関する異議申立て

成績評価に関して疑問や質問がある場合は、まず、授業担当教員に説明を求めてください。授業担当教員による説明に納得がいけない場合は、成績評価に関する異議申立てを行うことができますので、教務・学部運営室教務グループに相談してください。

ただし、異議申立ての期間は、当該授業の成績開示後1週間以内となっていますので、注意してください。

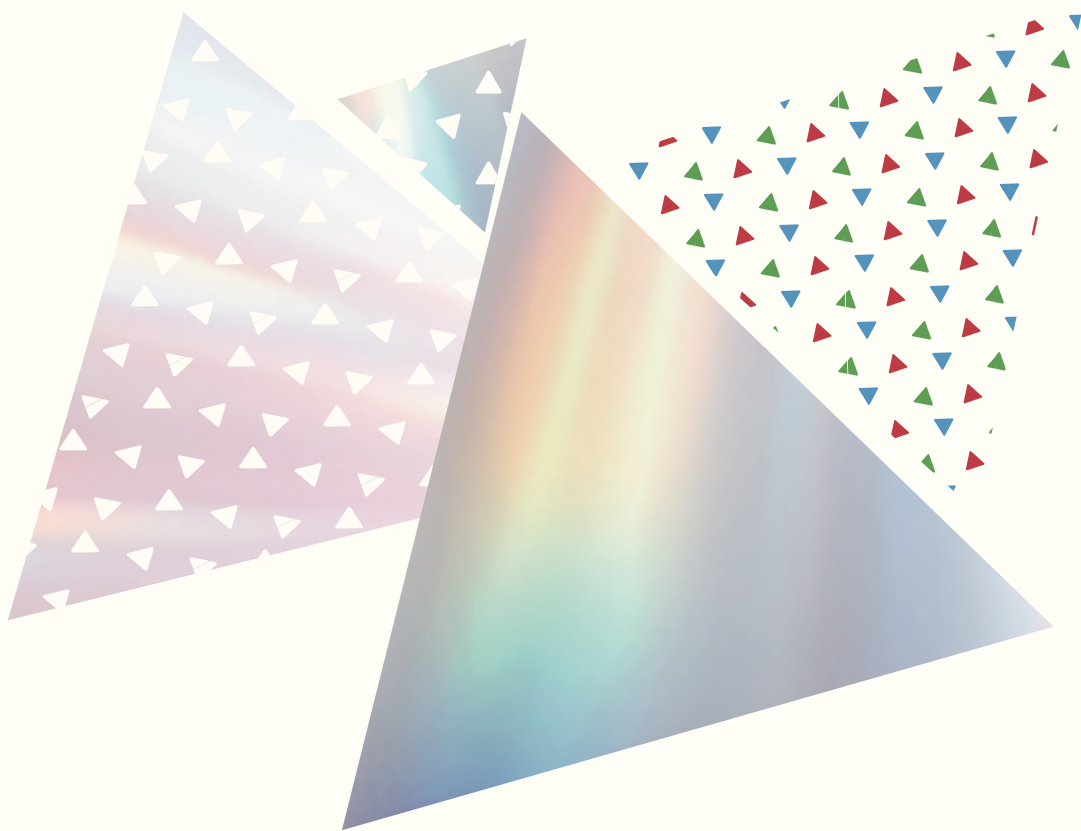
なお、異議申立てに対する回答は、原則として、申立書受理日から2週間以内に行いますが、異議申立てに対する回答に対しての再異議申立てはできません。





〒731-3194 広島県広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号 <https://www.hiroshima-cu.ac.jp/>

2024年度 入学生版 教育課程



目次

教育課程等

教育課程	2
卒業要件	2
履修基準	3
卒業論文等登録条件	4
イノベーション人材育成プログラム（情報科学部）	5
早期卒業制度（情報科学部）	5
単位互換制度	5
地域志向特定プログラム	6

教育課程表

全学共通系科目	7
外国語系科目	9
資格取得関係科目	10

専門教育科目

【国際学部】

専門基礎科目・領域認定制度	12
専門科目	13

【情報科学部】

専門基礎科目（4学科共通）	21
専門科目	
情報工学科	22
知能工学科	25
システム工学科	28
医用情報科学科	31

【芸術学部】

専門基礎科目（2学科共通）	34
専門科目	
美術学科 日本画専攻	36
油絵専攻	37
彫刻専攻	38
デザイン工芸学科	39

教育職員免許状受領資格取得関係科目表

教科及び教科の指導法に関する科目

国際学部	40
情報科学部	
情報工学科	41
知能工学科	43
システム工学科	45
医用情報科学科	47
芸術学部	
美術学科 日本画専攻	48
油絵専攻	49
彫刻専攻	50
デザイン工芸学科	51

教育の基礎的理解に関する科目等

大学が独自に設定する科目	54
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	54
学芸員資格取得関係科目表	55

資格

教員を目指す人	56
学芸員を目指す人	57
公務員を目指す人	57

教育課程等

教育課程

本学の教育課程は、全学共通系科目、外国語系科目及び専門教育科目で構成されています。授業科目の種類及び単位数については教育課程表（7～39ページ）を参照してください。

1 全学共通系科目

全学共通系科目は総合共通科目（広島・地域志向科目、平和科目、共通科目A（人間と社会）、共通科目B（数理と自然）、共通科目C（芸術）、初年次演習科目、キャリア形成・実践科目）、一般情報処理科目及び保健体育科目で編成されています。

(1) 広島・地域志向科目

広島と周辺圏域の歴史や文化・産業などを学ぶとともに、地域課題へのアプローチを汎用的に学ぶ授業科目

(2) 平和科目

被爆体験を若い世代に継承するとともに、平和と人権について多面的に学ぶことを目的とした授業科目

(3) 共通科目A（人間と社会）

人間と文化、社会のかかわりを中心とする授業科目

(4) 共通科目B（数理と自然）

人間と科学のかかわりを中心とする授業科目

(5) 共通科目C（芸術）

創造と表現を中心とする授業科目

(6) 初年次演習科目

大学教育において必要となる汎用的技能の基礎を学ぶ授業科目

(7) キャリア形成・実践科目

自らの将来（就職、進学等）について考えるための授業科目

2 外国語系科目

外国語系科目は、英語とその他の外国語で編成されています。

3 専門教育科目

各学部ごとに「専門基礎科目」と「専門科目」で編成されています。

4 資格取得関係科目

教員免許状の取得のための「教育職員免許状受領資格取得関係科目」と学芸員資格取得のための「学芸員資格取得関係科目」を設置しています（40～55ページ参照）。各学部で取得できる資格等については56～57ページを参照してください。

卒業要件

卒業するためには、4年以上在学し、次の表に定める単位を修得しなければなりません。

この要件は、卒業するまで有効です。必ず自身の入学年度の要件を確認してください。

区 分		国 際 学 部	情 報 科 学 部				芸 術 学 部	
			情 報 工 学 科	知 能 工 学 科	シ ス テ ム 工 学 科	医 用 情 報 科 学 科	美 術 学 科	デ ザ イン 工 芸 学 科
全学共通系科目 (A)	広島・地域志向科目	2単位以上			2単位以上		2単位以上	
	平和科目	2単位以上			2単位以上		2単位以上	
	共通科目A(人間と社会)	4単位以上			4単位以上		4単位以上	
	共通科目B(数理と自然)	2単位以上			4単位以上		2単位以上	
	共通科目C(芸術)	2単位以上			2単位以上		2単位以上	
	初年次演習科目	1単位			1単位		1単位	
	キャリア形成・実践科目	1単位以上			1単位以上		1単位以上	
	総合共通科目小計	14単位以上			16単位以上		18単位以上	
	一般情報処理科目	2単位			2単位		2単位	
	保健体育科目	2単位			2単位		2単位	
外国語系科目(B)		12単位以上			8単位以上		6単位以上	
全学共通系科目等計(A+B)		30単位以上			33単位		30単位	
専門教育科目	専門基礎科目	9単位以上			95単位		22単位	
	専門科目	84単位以上					76単位	
	計	93単位以上			95単位		98単位	
卒業必要単位数		128単位			128単位		128単位	

履修基準

卒業に必要な単位数は、前ページの表のとおり各学部によって異なります。

各学部の履修基準は次のとおりとなっていますので、しっかりと確認して間違いのないよう注意してください。

国際学部

1 総合共通科目

前ページの表の基準により履修してください。

2 一般情報処理科目

「情報活用基礎」（2単位）を履修してください。

3 保健体育科目

「体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ」（各1単位、計2単位）又は「健康科学」（2単位）のいずれかを選択して履修してください。両方を履修しても構いませんが、卒業単位としては2単位しか算入されません。

4 外国語系科目

以下の基準に従い、必修8単位、選択4単位の計12単位以上履修してください。

必修 (8単位)	英語科目	「CALL英語集中Ⅰ」、「CALL英語集中Ⅱ」、「英語応用演習Ⅰ」、「英語応用演習Ⅱ」（各1単位）をすべて取得	4単位
	第二外国語科目	アラビア語、イタリア語、スペイン語、中国語、ドイツ語、ハンブルグ、フランス語、ロシア語の8言語の中から同一言語をひとつ選択し、ⅠからⅣ（各2単位）のうち2科目の単位を取得（日本語の授業は留学生のみ対象）	4単位
いずれか 選択 (4単位)	選択1： 英語科目	「CALL英語集中Ⅲ」、「CALL英語集中Ⅳ」、「英語応用演習Ⅲ」、「英語応用演習Ⅳ」（各1単位）をすべて単位取得	4単位
	選択2： 第二外国語科目	アラビア語、イタリア語、スペイン語、中国語、ドイツ語、ハンブルグ、フランス語、ロシア語の8言語の中から必修で取得した第二外国語科目と同一言語を選択し、ⅠからⅣ（各2単位）まですべて単位取得（日本語の授業は留学生のみ対象）	4単位

【参考：履修パターン】

基準に当てはめると履修パターンは、英語を主として履修するパターンと、同一言語の第二外国語を主として履修するパターンのいずれか2つです。なお、履修パターンは、最低限の要件を満たすもので、いずれもこの履修パターンを踏まえた上でのさらなる外国語の積極的な履修を妨げるものではありません。

<英語を主とする履修パターン>青：選択必修

年次	学期	履修する授業科目 (カッコ内は単位数)			合計単位
1年次	前期	CALL 英語集中Ⅰ (1)	英語応用 演習Ⅰ (1)	第二 外国語Ⅰ (2)	計12単位 以上
	後期	CALL 英語集中Ⅱ (1)	英語応用 演習Ⅱ (1)	第二 外国語Ⅱ (2)	
2年次	前期	CALL 英語集中Ⅲ (1)	英語応用 演習Ⅲ (1)		
	後期	CALL 英語集中Ⅳ (1)	英語応用 演習Ⅳ (1)		

<同一の第二外国語を主とする履修パターン>青：選択必修

年次	学期	履修する授業科目 (カッコ内は単位数)			合計単位
1年次	前期	CALL 英語集中Ⅰ (1)	英語応用 演習Ⅰ (1)	第二 外国語Ⅰ (2)	計12単位 以上
	後期	CALL 英語集中Ⅱ (1)	英語応用 演習Ⅱ (1)	第二 外国語Ⅱ (2)	
2年次	前期			第二 外国語Ⅲ (2)	
	後期			第二 外国語Ⅳ (2)	

※異なる言語の組み合わせで第二外国語をⅠからⅣまで12単位取得しても、同一言語でなければ基準を満たしませんので注意してください。

情報科学部

- 1 総合共通科目
前ページの表の基準により履修してください。
- 2 一般情報処理科目
「情報活用基礎」(2単位)を履修してください。
- 3 保健体育科目
「体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ」(各1単位、計2単位)又は「健康科学」(2単位)のいずれかを選択して履修してください。両方を履修しても構いませんが、卒業単位としては2単位しか算入されません。
- 4 外国語系科目
「英語応用演習Ⅰ、英語応用演習Ⅱ、英語応用演習Ⅲ、英語応用演習Ⅳ、eラーニング英語Ⅰ、eラーニング英語Ⅱ、eラーニング英語Ⅲ、eラーニング英語Ⅳ」(各1単位)の計8単位が必修となります。
- 5 専門教育科目
情報科学部の専門教育科目は全学科対象の「専門基礎科目」と各学科ごとの「専門科目」により構成されています。情報科学部では、2年前期から学科に配属されますが、2年前期までは主に「専門基礎科目」を履修し、2年後期から各学科ごとの「専門科目」を履修することになります。各学科における専門教育科目の履修基準は以下のとおりです。
 - (1) 情報工学科
必修45単位を含め95単位
 - (2) 知能工学科
必修48単位を含め95単位
 - (3) システム工学科
必修45単位を含め95単位
 - (4) 医用情報科学科
必修45単位を含め95単位
- 6 学科配属について
情報科学部の学生は、1年後期終了時に、2年次進級が認められて(原則として前期を1期及び後期を1期、各期を途中休学することなく、かつ卒業要件となる128単位のうち、20単位以上修得している。)いれば、本人の希望と成績に基づき、「情報工学科」「知能工学科」「システム工学科」「医用情報科学科」のいずれかの学科に配属されます。

芸術学部

- 1 総合共通科目
前ページの表の基準により履修してください。
- 2 一般情報処理科目
「情報活用基礎」(2単位)を履修してください。
- 3 保健体育科目
「体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ」(各1単位、計2単位)又は「健康科学」(2単位)のいずれかを選択して履修してください。両方を履修しても構いませんが、卒業単位としては2単位しか算入されません。
- 4 外国語系科目
「CALL英語集中Ⅰ、CALL英語集中Ⅱ、英語応用演習Ⅰ、英語応用演習Ⅱ」(各1単位)の計4単位が必修となります。また、このほか英語科目「英語応用演習Ⅲ、英語応用演習Ⅳ、CALL英語集中Ⅲ、CALL英語集中Ⅳ」及び英語以外の外国語系科目の中から2単位以上を履修してください。
- 5 専門教育科目
芸術学部の専門教育科目は「専門基礎科目」と「専門科目」により構成されています。その履修基準は専門基礎科目22単位、専門科目76単位(必修)です。

※ 各学部においては、学期初めのガイダンス等で細かな履修指導を行っています。ガイダンス等には必ず出席してください。

卒業論文等登録条件

4年次に進級し、卒業論文、卒業研究、卒業制作の履修登録を行うためには、各所属する学部・学科において設けている条件を満たさなければなりません。各学部とも卒業論文等は必修科目であり、履修登録ができないことは卒業延期となることを意味します。

4年生になって後悔しても始まりません。そんなことにならないよう、今後、計画的に単位を修得するようにしてください。

学 部	卒業論文等登録条件
国 際 学 部	卒業の要件となる 128 単位のうち、 <u>90 単位以上</u> を修得
情報科学部 (全学科) ※	3 年次末において、卒業の要件となる 128 単位のうち、3 年次までの必修の実験、演習科目(専門教育科目に限る)、eラーニング英語Ⅲおよび eラーニング英語Ⅳの全単位を含む <u>110 単位以上</u> を修得
芸 術 学 部 (全学科)	卒業の要件となる 128 単位のうち、 <u>90 単位以上</u> を修得

(※) 情報科学部においては、4 年次進級条件となります。この条件を満たさないと、卒業研究以外の 4 年次に開設されている他の授業科目も履修できません。詳しくは学期初めの学部ガイダンス等において説明します。

イノベーション人材育成プログラム (情報科学部)

情報科学部では、ICT活用に不可欠なプログラミングや情報科学の基礎となる数学において秀でた能力を、学習意欲と共にさらに伸ばす「イノベーション人材育成プログラム」により、社会にイノベーションをもたらし得る人材を育成します。

本プログラムでは、標準で開講されている科目群に加え、実践的な情報技術のプロフェッショナルを育成する「革新的 ICT 実践特別コース」、科学的探究能力をもつIT技術者を育成する「革新的情報科学特別コース」、および両者の共通科目群の科目を履修できます。いずれの科目群でも創造力を養うことができます。総合型選抜推薦入試による入学者は優先的に履修できますが、情報科学部に入学したすべての学生が履修にチャレンジできます。

本プログラムは大学院との一貫カリキュラムを想定しており、所定の成績でプログラムを修了した学生は、通常4年次で履修する卒業研究を飛ばして、早期に大学院に進学し先端的な研究を開始することができます。

本プログラムを修了することで、ICTに必要な基本知識や動作原理を身につけるのみならず、社会の課題に目を向け、創造的な解決策に挑戦するマインドが身につきます。社会の変化とニーズに対応できる実践的なICT人材として活躍できます。

早期卒業制度 (情報科学部)

情報科学部では、3年以上在学し、学部が定める卒業単位を優秀な成績で修得し、かつ、学生本人が希望した場合には、4年未満の在学で卒業できる「早期卒業制度」が導入されています。

早期卒業が認められる要件は以下のとおりです。

- ◆ 学生本人が早期卒業を希望していること。
- ◆ 所属する学科の定める卒業要件として必要な単位数を修得していること。
- ◆ 所属する学科における成績順位が上位で、所属学科が成績優秀と認めること。

早期卒業するためには、早期卒業の適格認定を受けたいうえで、4年間で修得する単位数を3年もしくは3年半で修得しなくてはなりません。

早期卒業を目指す優秀な成績と認められた学生（早期卒業適格認定者）は、半期で登録できる履修単位数の上限を超えて履修を行い、上位の学年に開設された授業科目の単位を修得することができます。履修単位数の上限を解除できる要件は別に定められており、その申請手続きは1年次の終わりから行うことができます。

早期卒業制度についての詳細は、入学時の学部ガイダンス等で説明します。

単位互換制度

単位互換とは、自分の所属大学以外の大学が提供する授業科目を受講して取得した単位を、所属大学の単位として認定する仕組みです。単位互換制度により取得した単位のうち、卒業要件として認められる単位の上限は60単位です。

- ◆ 協定を結ぶ機関との単位互換について

教育ネットワーク中国

本学では他大学との連携や、教育内容の充実を図る目的で一般社団法人「教育ネットワーク中国」が実施する単位互換制度に加入しています。広島県内の大学を中心に23の大学等が参加しており、各大学が提供する科目を単位互換科目として受講することができます。取得した単位は一部を除き、原則自由科目として認定されますが、学部によって科目の取扱いが異なるので、Webで公開される募集要項等を確認するようにしましょう。
(一社)教育ネットワーク中国 <https://www.enica.jp/>

海外学術協定校への派遣留学

本学では海外の大学と協定・覚書を締結し、学生の交換留学を推進しています。派遣期間中に取得した単位は、学部での審査を経て、本学の単位に認定することができます。認定を希望する場合は、教務グループにご相談ください。

<手続きに必要な書類>

- ・ 単位認定願（教務グループで配布）
- ・ 成績証明書（原本）
- ・ 認定を希望する科目のシラバス
- ・ 認定を希望する科目の学修時間や単位数が分かるもの
- ・ 成績評価基準が分かるもの

※いずれも外国語で書かれたものであれば、日本語訳を添付すること

- ◆ その他の単位互換

既修得単位等認定

本学に入学する前に大学または短期大学で取得した単位は、学部での審査を経て、全学共通系科目及び外国語系科目として認定することができます。入学した日から1か月以内に申請が必要です。認定を希望する場合は、教務グループにお早めにご相談ください。

<手続きに必要な書類>

- ・ 既修得単位等認定願（教務グループで配布）
- ・ 成績証明書（原本）
- ・ 認定を希望する科目のシラバス
- ・ 認定を希望する科目の学修時間や単位数が分かるもの
- ・ 成績評価基準が分かるもの

その他

留学による単位認定は、原則として、派遣留学が対象ですが、協定校以外の大学で単位を取得する場合でも認定できることがあります。必ず留学前に教務グループにご相談ください。

地域志向特定プログラム

「地域志向特定プログラム」は、地域に関して様々な視点から学びを深め、地域人材としての基礎をつくる「地域志向科目」で構成された教育プログラムです。

<修得を目指す能力>

- ① 地域の特性・課題を理解する能力
- ② 課題解決の方法を総合的視野から企画する能力
- ③ 自治体・企業・NPOなどとのネットワークを形成・調整する能力
- ④ ネットワークの中で自らの専門性を効果的に発揮する能力

下記の要件を満たす単位取得を行った学生は、成績証明書に「地域志向特定プログラム修了」と印字され、「地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付いて、その発展に貢献する人材の育成を目指す教育プログラムの所定の単位を修得したことを認定する」と記載されます。

■地域志向特定プログラムの修得要件■

下表の地域志向特定プログラム科目を、次のAからCを含めて8単位以上取得すること

- A 「広島・地域志向科目」群から4単位以上
- B 「地域課題演習」又は「地域実践演習」から1単位以上
- C 学部専門教育科目において別途定める「地域志向科目」群から2単位以上

さらに地域貢献に関するテーマで卒業論文・研究・制作の単位を取得した学生には、「ひろしま地域リーダー」の称号を授与します。

【地域志向特定プログラム科目】※教育課程表(7～39ページ)の備考欄に $\oplus$ マークのある科目

科目区分		地域志向特定プログラムの区分	授業科目名 (単位数)	開設年次及び学期
全学共通系科目	広島・地域志向科目	A	広島の観光学(2)、ひろしま論(2)、地域再生論入門(2)、NPO論(2)	1・2年・前期
			広島の産業と技術(2)	1・2年・後期
		B	地域課題演習(1)	1・2年次
国際学部 専門教育科目	公共政策・NPOプログラム	C	非営利組織論Ⅰ(2)	2年・前期
			非営利組織論Ⅱ(2)、地域再生論(2)	2年・後期
			交通論(2)	3年・前期
	多文化共生プログラム	B	フィールドワーク論(2)	2年・前期
	国際ビジネスプログラム		経営史(2)	2年・後期
	演習		専門演習Ⅰ(1)(地域実践演習)	3年・前期
情報科学部 専門教育科目	専門科目 (学部共通)	C	観光情報学(2)	2年・前期
			システム開発実践(2)	3年次
		B	課題解決型演習(1)(地域実践演習)	2年次
芸術学部 専門教育科目	専門基礎科目	C	アートマネジメント概論(2)	2年・後期
			造形応用研究Ⅰ(2)	1～4年次
			造形応用研究Ⅱ(2)	2～4年次
		B	地域実践演習(1)	3年次

【単位互換制度の活用について】

プログラム区分Aの修得要件については、教育ネットワーク中国の単位互換制度を活用し、他大学で開講される「単位互換科目」を履修して満たすことも可能です。

詳しくは教務・学部運営室教務グループへお問い合わせください。

教育課程表

教育課程は入学年度ごとに定められており、卒業要件や履修条件は原則として卒業するまで変わることはありません。ただし、教育課程表は改正により変更されることがあります。変更となった授業科目の取扱いや新規授業科目の情報などは読替表※として毎年度Webで公開されます。必ず確認して適切に履修しましょう。

※特に授業科目名が変更になる場合に新しい授業科目を履修することで、変更前の科目を履修したことにする措置を、科目の読替（よみかえ）ということから、授業科目の変更一覧は読替表と呼ばれます。

全学共通系科目

総合共通科目

注1

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	対象 学部	備考
		必修	選択	自由			
広島・地域志向科目	広島の観光学		2		1・2年・前期	全学部	地
	ひろしま論		2		1・2年・前期	全学部	地
	広島産業と技術		2		1・2年・後期	全学部	地
	地域再生論入門		2		1・2年・前期	全学部	地
	NPO論		2		1・2年・前期	全学部	地
	地域課題演習		1		1・2年次	全学部	地
平和科目	平和と人権A（ヒロシマと国際平和）		2		1・2年・前期	全学部	
	平和と人権B（現代世界と人権）		2		1・2年・後期	全学部	
	広島からの平和学：実践の方法		2		1・2年・前期	全学部	
	国際化時代の平和		2		1・2年・後期	全学部	
	「ヒロシマ」を考える		2		1・2年・後期	全学部	
共通科目A (人間と社会)	哲学		2		1・2年・後期	全学部	
	世界の宗教		2		1・2年・前期	全学部	
	心理学		2		1・2年・後期	全学部	
	歴史学		2		1・2年・前期	全学部	
	現代史A		2		1・2年・前期	全学部	
	現代史B		2		1・2年・後期	全学部	
	文学から学ぶ世界		2		1・2年・後期	全学部	
	法学（日本国憲法）		2		1・2年・前後期	全学部	注2
	政治学		2		1・2年・後期	全学部	
	経済学		2		1・2年・前期	全学部	
	社会学		2		1・2年・前期	全学部	
	文化人類学		2		1・2年・後期	全学部	
	自然人類学		2		1・2年・前期	全学部	
	経営学		2		1・2年・後期	全学部	
	心の健康・身体の健康		2		1・2年・前期	全学部	
	メディアと社会		2		1・2年・後期	全学部	
	自己の認識を深める		2		1・2年・前期	全学部	
	人間関係とコミュニケーション		2		1・2年・後期	全学部	

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	対象 学部	備考
		必修	選択	自由			
共通科目B (数理と自然)	数学概論		2		1・2年・前期	国際・芸術	
	物理学概論		2		1・2年・前期	国際・芸術	
	基礎物理学		2		1・2年・前期	全学部	注3
	化学概論		2		1・2年・後期	国際・芸術	
	基礎化学		2		1・2年・前期	全学部	注3
	生物学概論		2		1・2年・前期	国際・芸術	
	基礎生物学		2		1・2年・後期	全学部	注3
	情報科学概論		2		1・2年・後期	国際・芸術	
	物理・化学実験		2		1・2年・後期	全学部	注3
	地球環境論		2		1・2年・前期	全学部	
	情報社会論		2		1・2年・後期	全学部	
	データサイエンス		2		1・2年・後期	全学部	
共通科目C (芸術)	デッサン概論		2		1・2年・前期	国際・情報	
	油絵入門		2		1・2年・第3ターム(後期)	国際・情報	
	日本画入門		2		1・2年・第3ターム(後期)	国際・情報	
	立体造形概論		2		1・2年・後期	国際・情報	
	プレゼンテーション概論		2		1・2年・前期	全学部	
	デザイン工芸概論		2		1・2年・後期	全学部	
	コンピュータ・アート		2		2年・後期	全学部	注4
	創作と人間		2		1・2年・前期	全学部	
初年次演習科目	3学部合同基礎演習	1			1年・前期	全学部	
キャリア形成・ 実践科目	キャリアデザインⅰ		1		1・2年・第1ターム(前期)	全学部	
	キャリアデザインⅱ		1		1・2年・第4ターム(後期)	全学部	
	キャリアサポートベーシックA		1		2・3年・前期	全学部	
	キャリアサポートベーシックB		1		2・3年・後期	全学部	
	仕事体験演習		1		1・2年・通年	全学部	
	国際交流演習Ⅰ		1		1～4年・通年	全学部	
	国際交流演習Ⅱ		1		1～4年・通年	全学部	
	国際交流演習Ⅲ		1		1～4年・通年	全学部	
	国際交流演習Ⅳ		1		1～4年・通年	全学部	

一般情報処理科目

一般情報処理科目	情報活用基礎	2			1年・前期	全学部	注5
----------	--------	---	--	--	-------	-----	----

保健体育科目

保健体育科目	健康科学		2		1年・前期	全学部	
	体育実技Ⅰ		1		1年・前期	全学部	注6
	体育実技Ⅱ		1		1年・後期	全学部	注6

注1 履修時期は1年次でも2年次でもよい場合、専門教育科目とのバランスを考えながら履修時期を決めてください。ただし、3年次、4年次においても下年次履修は可能です。

注2 「法学（日本国憲法）」は、前期、後期どちらにも開講しますが、前期は国際学部生、後期は情報科学部生及び芸術学部生を対象とします。

注3 対象学部は「全学部」としていますが、主として情報科学部の学生向けの講義内容となっています。

注4 対象学部は「全学部」としていますが、主として国際学部及び芸術学部の学生向けの講義内容となっています。

注5 情報科学部は第1ターム（前期）に行います。

注6 「体育実技Ⅰ」の種目は初回授業で、「体育実技Ⅱ」の種目は「体育実技Ⅰ」の最終授業で、希望調査を行い決定します。

再履修を希望する場合は、担当教員に相談してください。

外国語系科目

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	対象 学部	備考
		必修	選択	自由			
英 語 科 目	CALL英語集中Ⅰ	1			1年・前期	国際・芸術	
	CALL英語集中Ⅱ	1			1年・後期	国際・芸術	
	CALL英語集中Ⅲ		1		2年・前期	国際・芸術	
	CALL英語集中Ⅳ		1		2年・後期	国際・芸術	
	eラーニング英語Ⅰ	1			1年・前期	情報	
	eラーニング英語Ⅱ	1			1年・後期	情報	
	eラーニング英語Ⅲ	1			2年・前期	情報	
	eラーニング英語Ⅳ	1			2年・後期	情報	
	英語応用演習Ⅰ	1			1年・前期	全学部	
	英語応用演習Ⅱ	1			1年・後期	全学部	
	英語応用演習Ⅲ		1		2年・前後期	国際	注7
	英語応用演習Ⅳ		1		2年・前後期	国際	注7
	英語応用演習Ⅴ	1			2年・前期	情報	
	英語応用演習Ⅵ	1			2年・後期	情報	
	英語応用演習Ⅶ		1		2年・前期	芸術	
	英語応用演習Ⅷ		1		2年・後期	芸術	
英 語 以 外 の 外国語系科目	ドイツ語Ⅰ		2		1年・前期	全学部	
	ドイツ語Ⅱ		2		1年・後期	全学部	
	ドイツ語Ⅲ		2		1・2年・前期	全学部	注8
	ドイツ語Ⅳ		2		1・2年・後期	全学部	注8
	フランス語Ⅰ		2		1年・前期	全学部	
	フランス語Ⅱ		2		1年・後期	全学部	
	フランス語Ⅲ		2		1・2年・前期	全学部	注8
	フランス語Ⅳ		2		1・2年・後期	全学部	注8
	中国語Ⅰ		2		1年・前期	全学部	
	中国語Ⅱ		2		1年・後期	全学部	
	中国語Ⅲ		2		1・2年・前期	全学部	注8
	中国語Ⅳ		2		1・2年・後期	全学部	注8
	ハングルⅠ		2		1年・前期	全学部	
	ハングルⅡ		2		1年・後期	全学部	
	ハングルⅢ		2		1・2年・前期	全学部	注8
	ハングルⅣ		2		1・2年・後期	全学部	注8

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	対象 学部	備考
		必修	選択	自由			
英 語 以 外 の 外 国 語 系 科 目	アラビア語Ⅰ		2		1年・前期	全学部	
	アラビア語Ⅱ		2		1年・後期	全学部	
	アラビア語Ⅲ		2		1・2年・前期	全学部	注8
	アラビア語Ⅳ		2		1・2年・後期	全学部	注8
	ロシア語Ⅰ		2		1年・前期	全学部	
	ロシア語Ⅱ		2		1年・後期	全学部	
	ロシア語Ⅲ		2		1・2年・前期	全学部	注8
	ロシア語Ⅳ		2		1・2年・後期	全学部	注8
	イタリア語Ⅰ		2		1年・前期	全学部	
	イタリア語Ⅱ		2		1年・後期	全学部	
	イタリア語Ⅲ		2		1・2年・前期	全学部	注8
	イタリア語Ⅳ		2		1・2年・後期	全学部	注8
	スペイン語Ⅰ		2		1年・前期	全学部	
	スペイン語Ⅱ		2		1年・後期	全学部	
	スペイン語Ⅲ		2		1・2年・前期	全学部	注8
	スペイン語Ⅳ		2		1・2年・後期	全学部	注8
	日本語Ⅰ		2		1年・前期	全学部	注9
	日本語Ⅱ		2		1年・後期	全学部	注9
	日本語Ⅲ		2		1・2年・前期	全学部	注8注9
	日本語Ⅳ		2		1・2年・後期	全学部	注8注9

注7 前期・後期とも開講するので、国際学部の学生は別途掲示するクラス分け表により前期又は後期のいずれかを履修すること。

注8 1年生が履修する場合は、科目担当教員の承認が必要です。

注9 外国人留学生対象の科目であり、日本人学生は履修できません。

資格取得関係科目

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	対象 学部	備考
		必修	選択	自由			
教育職員免許状 受 領 資 格 取 得 関 係 科 目	教師論			2	1年・後期	全学部	
	教育原理			2	2年・前期	全学部	
	教育心理学			2	2年・後期	全学部	
	教育課程論			1	2年・第3ターム(後期)	全学部	
	教育経営学			2	3年・前期	全学部	
	特別支援教育論			1	3年・第1ターム(前期)	全学部	
	生徒・進路指導論			2	2年・前期	全学部	
	道德教育論			2	2年・後期	全学部	
	教育方法・技術論			1	2年・第3ターム(後期)	全学部	
	教育相談論			2	2年・前期	全学部	

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	対象 学部	備考
		必修	選択	自由			
教育職員免許状 受領資格取得 関 係 科 目	情報通信技術を活用した教育の理論			1	2年・第4ターム(後期)	全学部	
	総合的な学習の時間論			1	2年・第4ターム(後期)	全学部	
	特別活動論			1	3年・第2ターム(前期)	全学部	
	教科教育法(英語) A I			2	2年・前期	国際	
	教科教育法(英語) A II			2	2年・後期	国際	
	教科教育法(英語) B I			2	3年・前期	国際	
	教科教育法(英語) B II			2	3年・後期	国際	
	教科教育法(数学) I			2	3年・前期	情報	
	教科教育法(数学) II			2	3年・後期	情報	
	教科教育法(情報) I			2	3年・前期	情報	
	教科教育法(情報) II			2	3年・後期	情報	
	教科教育法(美術) A I			2	2年・前期	芸術	
	教科教育法(美術) A II			2	2年・後期	芸術	
	教科教育法(美術) B I			2	3年・前期	芸術	
	教科教育法(美術) B II			2	3年・後期	芸術	
	教科教育法(工芸) I			2	3年・前期	芸術	
	教科教育法(工芸) II			2	3年・後期	芸術	
	教育実習 I			3	4年次	全学部	
	教育実習 II			2	4年次	全学部	
	教職実践演習(中等) A			2	4年・後期	国際	
	教職実践演習(中等) B			2	4年・後期	情報	
	教職実践演習(中等) C			2	4年・後期	芸術	
	学校インターンシップ			2	2・3・4年次	国際・芸術	
	教職特講			2	3年・後期	全学部	
学芸員資格取得 関 係 科 目	生涯学習概論			2	1年・後期	芸術	注10
	博物館教育論			2	2年・前期	芸術	注11
	博物館資料論			2	2年・後期	芸術	注11
	博物館概論			2	3年・前期	芸術	注11
	博物館経営論			2	3年・後期	芸術	注11
	博物館資料保存論			2	3年・後期	芸術	注11
	博物館展示論			2	3年・後期	芸術	注11
	博物館情報・メディア論			2	3年・後期	芸術	注11
	博物館実習			3	4年次	芸術	注11

注10 国際学部は学部専門科目(公共政策・NPOプログラム)の選択科目として履修すること。

注11 国際学部の学生が履修するためには、「他学部履修」の手続きを行う必要があります。

専門教育科目

国際学部 国際学科

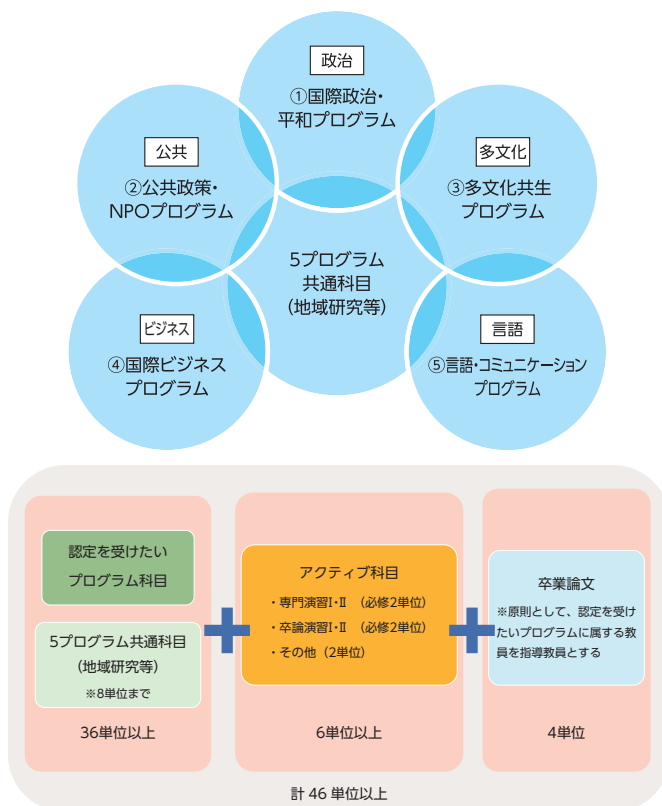
科目区分		授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
			必修	選択	自由		
専門基礎科目	ベーシック入門科目	国際研究入門	2			1年・前期	
		データ分析入門		2		1年・後期	
	ベーシック演習科目	基礎演習	1			1年・後期	
		発展演習Ⅰ	1			2年・前期	
		発展演習Ⅱ	1			2年・後期	
	英語スキルアップ科目	英語読解法Ⅰ		2		2年・前期	
		英語読解法Ⅱ		2		2年・後期	
		英語討論技法Ⅰ		2		2年・前期	
		英語討論技法Ⅱ		2		2年・後期	
		英文作法Ⅰ		2		2年・前期	
		英文作法Ⅱ		2		2年・後期	

【専門科目の「領域」認定】

国際学部では、13ページから19ページまでの専門科目に5つのプログラムを設け、ひとつのプログラム科目（2つ以上のプログラム科目に共通する授業科目を含む*）と5プログラム共通科目（地域研究等）から36単位以上を履修し、かつ、アクティブ科目から6単位以上と卒業論文4単位の計46単位以上を履修して、当該プログラムの「領域」認定を受けることが卒業要件です。

ただし、領域認定に加算できる5プログラム共通科目（地域研究等）の単位数は8単位以内です。

※ 授業科目によっては、2つ以上のプログラムに共通する授業科目もあり、「備考欄」に下記の略号を付記しています。



科目区分			授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
				必修	選択	自由		
専 門 科 目	5 プ ロ グ ラ ム 科 目	国 際 政 治 ・ 平和プログラム	国際関係論		2		1年・前期	
			国際関係史入門		2		1年・後期	
			平和研究入門		2		1年・後期	
			国際安全保障論		2		2年・前期	
			比較政治学		2		2年・前期	
			国際協力論Ⅰ		2		2年・前期	公共
			国際協力論Ⅱ		2		2年・後期	公共
			国際社会論Ⅰ		2		2年・前期	多文化
			国際社会論Ⅱ		2		2年・後期	多文化
			平和研究Ⅰ		2		2年・前期	
			平和研究Ⅱ		2		2年・後期	
			国際関係史（中国）Ⅰ		2		2年・前期	
			国際関係史（中国）Ⅱ		2		2年・後期	
			国際法		2		2年・後期	
			国際政治理論		2		2年・後期	
			国際政治学		2		2年・後期	
			Learning IIIs		2		2年・前期	
			Contemporary Political Issues		2		2年・後期	
			History of Japanese Politics and Diplomacy		2		2年・後期	
			Peace and Conflict Studies		2		2年・前期	
			国際人権法		2		3年・前期	
			民族国家論Ⅰ		2		3年・後期	
			民族国家論Ⅱ		2		3年・後期	
			開発政治論Ⅰ		2		3年・前期	公共
			開発政治論Ⅱ		2		3年・後期	公共
			紛争解決論Ⅰ		2		3年・前期	
			紛争解決論Ⅱ		2		3年・後期	
			国際機構論Ⅰ		2		3年・前期	
			国際機構論Ⅱ		2		3年・後期	
			国際関係史（日本）Ⅰ		2		3年・前期	
			国際関係史（日本）Ⅱ		2		3年・後期	
			国際関係史（朝鮮半島）Ⅰ		2		3年・前期	
			国際関係史（朝鮮半島）Ⅱ		2		3年・後期	
			国際関係史（アメリカ）Ⅰ		2		3年・前期	
			国際関係史（アメリカ）Ⅱ		2		3年・後期	
			国際関係史（ロシア）Ⅰ		2		3年・前期	
			国際関係史（ロシア）Ⅱ		2		3年・後期	
			日本社会と人権		2		3年・後期	多文化

科目区分			授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
				必修	選択	自由		
専 門 科 目	5 プ ロ グ ラ ム 科 目	公 共 政 策・ NPOプログラム	公共政策・NPO入門		1		1年・第3ターム(後期)	
			ミクロ経済学Ⅰ		2		1年・後期	ビジネス
			マクロ経済学Ⅰ		2		1年・後期	
			基本統計学Ⅰ		2		2年・前期	
			リーディング・パブリック・ポリシーⅰ		1		1年・第1ターム(前期)	
			リーディング・パブリック・ポリシーⅱ		1		1年・第2ターム(前期)	
			国際開発学		2		1年・後期	政治
			生涯学習概論		2		1年・後期	
			ミクロ経済学Ⅱ		2		2年・前期	ビジネス
			基本統計学Ⅱ－ⅰ		1		2年・第3ターム(後期)	
			基本統計学Ⅱ－ⅱ		1		2年・第4ターム(後期)	
			交通論		2		3年・前期	ビジネス 地
			開発社会学		2		2年・前期	
			非営利組織論Ⅰ		2		2年・前期	ビジネス 地
			非営利組織論Ⅱ		2		2年・後期	ビジネス 地
			財政学Ⅰ		2		2年・前期	
			財政学Ⅱ		2		2年・後期	
			現代社会と法Ⅰ		2		2年・前期	
			現代社会と法Ⅱ		2		2年・後期	
			経済政策論Ⅰ		2		2年・前期	政治
			経済政策論Ⅱ		2		2年・後期	
			組織の経済学Ⅰ		2		2年・前期	ビジネス
			組織の経済学Ⅱ		2		2年・後期	ビジネス
			マクロ経済学Ⅱ		2		2年・後期	
			金融論		2		2年・後期	ビジネス
			スポーツ開発論		2		2年・後期	ビジネス
			健康心理学		2		2年・後期	
			Comparative Education		2		2年・後期	
			地域再生論		2		2年・後期	ビジネス 地
			環境社会学		2		2年・後期	
			地方自治論		2		2年・前期	
			開発プロジェクト論		2		3年・前期	
			比較法制度Ⅰ		2		3年・前期	
			比較法制度Ⅱ		2		3年・後期	

科目区分			授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
				必修	選択	自由		
専 門 科 目	5 プ ロ グ ラ ム 科 目	多文化共生 プログラム	多文化共生入門		2		1年・前期	
			社会文化思想史Ⅰ		2		1年・後期	政治
			テキスト分析法		2		2年・前期	言語
			フィールドワーク論		2		2年・前期	言語・公共 ^④
			ジェンダーとセクシュアリティ		2		2年・前期	
			社会文化思想史Ⅱ		2		2年・前期	
			マス&ソーシャルメディア論		2		2年・前期	政治
			比較文化論Ⅰ		2		2年・前期	
			比較文化論Ⅱ		2		2年・後期	
			音楽人類学Ⅰ		2		2年・前期	
			音楽人類学Ⅱ		2		2年・後期	
			文化交流史Ⅰ		2		2年・前期	
			文化交流史Ⅱ		2		2年・後期	
			共生の哲学Ⅰ		2		2年・前期	
			共生の哲学Ⅱ		2		2年・後期	
			美術史（日本）Ⅰ		2		2年・前期	
			美術史（日本）Ⅱ		2		2年・後期	
			美学Ⅰ		2		2年・前期	
			美学Ⅱ		2		2年・後期	
			エスニシティと宗教Ⅰ		2		2年・後期	
			労働と社会		2		2年・後期	
			メディア・リテラシー		2		2年・後期	
			East Asian Cultures and Societies		2		2年・後期	
			Hiroshima and Atomic Bombing in Media		2		2年・後期	
			Future StudiesⅠ		2		2年・後期	
			Premodern Japanese Studies		1		2年・第2ターム(前期)	
			エスニシティと宗教Ⅱ		2		3年・前期	
			異文化間交渉論		2		3年・前期	
			比較民族学Ⅰ		2		3年・前期	
			比較民族学Ⅱ		2		3年・後期	
			美術史（西洋）Ⅰ		2		3年・前期	
			美術史（西洋）Ⅱ		2		3年・後期	
			美術史（現代）Ⅰ		2		3年・前期	
			美術史（現代）Ⅱ		2		3年・後期	
			Future StudiesⅡ		2		3年・前期	
			Exploring Japanese Society		2		3年・前期	

科目区分			授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
				必修	選択	自由		
専 門 科 目	5 プ ロ グ ラ ム 科 目	国 際 ビ ジ ネ ス プ ロ グ ラ ム	国際ビジネス入門		2		1年・前期	
			会計学Ⅰ		2		1年・後期	
			International Commerce		2		1年・後期	
			会計学Ⅱ		2		2年・前期	
			経営戦略論		2		2年・前期	
			人的資源管理論		2		2年・前期	
			国際経営論Ⅰ		2		2年・前期	
			国際経営論Ⅱ		2		2年・後期	
			マーケティング論Ⅰ		2		2年・前期	公共
			マーケティング論Ⅱ		2		2年・後期	
			多国籍企業論Ⅰ		2		2年・前期	
			多国籍企業論Ⅱ		2		2年・後期	
			財務管理論Ⅰ		2		2年・前期	
			財務管理論Ⅱ		2		2年・後期	
			経営史		2		2年・第4ターム(後期)	地
			公会計論		2		2年・前期	公共
			国際会計論		2		2年・後期	
			経営組織論		2		2年・後期	
			International Business		2		2年・後期	
			Introduction to Management		2		2年・後期	
			国際貿易論		2		3年・前期	
			国際金融論Ⅰ		2		3年・前期	公共
			国際金融論Ⅱ		2		3年・後期	
			国際ビジネス法務Ⅰ		2		3年・前期	公共
			国際ビジネス法務Ⅱ		2		3年・後期	
			テクノロジーマネジメント		2		3年・後期	

科目区分			授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
				必修	選択	自由		
専 門 科 目	5 プ ロ グ ラ ム 科 目	言語・コミュニケーション プログラム	言語・コミュニケーション研究入門A		1		1年・第3ターム(後期)	
			言語・コミュニケーション研究入門B		1		1年・第4ターム(後期)	
			フランスの文学と文化		2		2年・前期	多文化
			応用言語論Ⅰ		2		2年・前期	
			応用言語論Ⅱ		2		2年・後期	
			日本語学・日本語教育学Ⅰ		2		2年・前期	
			日本語学・日本語教育学Ⅱ		2		2年・後期	
			翻訳論Ⅰ		2		2年・前期	
			翻訳論Ⅱ		2		2年・後期	
			言語比較論Ⅰ		2		2年・前期	
			言語比較論Ⅱ		2		2年・後期	
			通訳技法論Ⅰ		2		2年・前期	
			通訳技法論Ⅱ		2		2年・後期	
			コミュニケーション技法論Ⅰ		2		2年・前期	
			コミュニケーション技法論Ⅱ		2		2年・後期	
			イギリスの文学と文化Ⅰ		2		2年・前期	多文化
			イギリスの文学と文化Ⅱ		2		2年・後期	多文化
			Cross-cultural Language and CommunicationⅠ		2		2年・前期	
			Cross-cultural Language and CommunicationⅡ		2		2年・後期	
			英文法論		2		3年・前期	
			英米文学概論Ⅰ		2		3年・前期	
			時事英語		2		3年・前期	
			英語学概論Ⅰ		2		3年・前期	
			英語学概論Ⅱ		2		3年・後期	
			英文構成法Ⅰ		2		3年・前期	
			英文構成法Ⅱ		2		3年・後期	
			英米文学概論Ⅱ		2		3年・後期	
			英語聴解法		2		3年・後期	
			Special Lecture in British and American LiteratureⅠ		2		3年・前期	
			Special Lecture in British and American LiteratureⅡ		2		3年・後期	
			Communication in EnglishⅠ		1		3年・前期	
			Communication in EnglishⅡ		1		3年・後期	

科目区分			授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
				必修	選択	自由		
専 門 科 目	5 プ ロ グ ラ ム 科 目	5プログラム 共 通 科 目 (地 域 研 究 等)	地域研究入門		2		1年・前期	
			データ分析Ⅰ		2		2年・前期	
			データ分析Ⅱ		2		2年・後期	
			広島と世界		2		2年・後期	
			日本政治論		2		2年・前期	
			国際日本学		2		3年・前期	
			日本文化史Ⅰ		2		1年・後期	
			日本文化史Ⅱ		2		2年・前期	
			Modern Japanese Studies		2		2年・後期	
			東北アジア政治論		2		1年・後期	
			東南アジア研究		2		2年・後期	
			東アジア研究		2		3年・前期	
			中国文化論Ⅰ		2		2年・前期	
			中国文化論Ⅱ		2		2年・後期	
			アメリカ政治論ⅰ		1		2年・第3ターム(後期)	
			アメリカ政治論ⅱ		1		2年・第4ターム(後期)	
			American CultureⅠ		2		2年・前期	
			American CultureⅡ		2		2年・後期	
			ラテンアメリカ研究Ⅰ		2		3年・前期	
			ラテンアメリカ研究Ⅱ		2		3年・後期	
			ヨーロッパ政治論		2		2年・前期	
			イギリス文化論Ⅰ		2		2年・前期	
			イギリス文化論Ⅱ		2		2年・後期	
			フランス文化論		2		2年・後期	
			Études de la société française		2		3年・後期	
			Deutschland und Japan im Vergleich		2		3年・後期	
			ロシア研究		2		1年・後期	
			中東アラブ研究入門		2		1年・後期	
			中東アラブ研究		2		2年・前期	
			アフリカ研究Ⅰ		2		1年・後期	
			アフリカ研究Ⅱ－ⅰ		1		2年・第1ターム(前期)	
			アフリカ研究Ⅱ－ⅱ		1		2年・第2ターム(前期)	
			アフリカ社会と開発		2		2年・前期	

科目区分			授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
				必修	選択	自由		
専 門 科 目	ア ク テ ィ ブ 科 目	国 際 交 流	国際研究特講Ⅰ		2		全学年	
			国際研究特講Ⅱ		2		全学年	
			海外短期英語留学		2		全学年	
			海外短期フランス語留学		4		全学年	
			海外短期ロシア語留学		2		全学年	
			海外短期中国語留学		2		全学年	
			HIROSHIMA and PEACE		2		2・3・4年次	
		イ ン タ ー ン シ ッ プ	企業インターンシップ		2		2・3・4年次	
			学部派遣海外インターンシップ		2		2・3・4年次	
			公的機関インターンシップ		2		2・3・4年次	
		演 習	専門演習Ⅰ	1			3年次	注1
			専門演習Ⅱ	1			3年次	注1
			卒論演習Ⅰ	1			4年次	
			卒論演習Ⅱ	1			4年次	
		特 別 演 習 ・ 特 別 講 義	特別演習Ⅰ		1		4年次	注2
			特別演習Ⅱ		1		4年次	注2
			特別演習Ⅲ		1		4年次	
			特別演習Ⅳ		1		4年次	
			特別講義Ⅰ		2		4年次	
			特別講義Ⅱ		2		4年次	
		卒 業 論 文	卒業論文	4			4年次	注3

注1 専門演習について

- (1) 専門演習の分野から2単位以上（演習Ⅰと演習Ⅱを各1単位以上）を履修すること。
- (2) 「専門演習Ⅰ」は前期履修を、「専門演習Ⅱ」は後期履修を原則とし、事前に指導教員の許可があった場合、「専門演習Ⅰ」の後期履修又は「専門演習Ⅱ」の前期履修が認められる。

注2 特別演習について

「特別演習Ⅰ」、「特別演習Ⅱ」は、事前に指導教員の許可があった場合に履修が認められる。また、一定の条件のもとに「アクティブ科目」への加算が認められる。

注3 卒業論文着手要件

広島市立大学履修規程第8条に規定する「学長が別に定める要件を満たす」者とは、国際学部においては、次の各号のいずれかに該当する者とする。なお、卒業論文は、原則として認定を受けようとするプログラムに所属する教員の指導のもとで執筆する必要がある。

- (1) 次に掲げる条件を満たす者
卒業の要件となる128単位のうち、90単位以上を修得していること
- (2) 教授会で認められた者

国際学部 全専門科目 配置図

1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次
国 際 学 部 5 プ ロ グ ラ ム 科 目	国際政治・平和 <前期> 国際関係論 <後期> 国際関係史入門 平和研究入門	国際安全保障論 国際協力論Ⅰ・Ⅱ[公共] 平和研究Ⅰ・Ⅱ 国際法 国際政治学 Peace and Conflict Studies Learning ILIs Contemporary Political Issues History of Japanese Politics and Diplomacy	比較政治学 国際社会論Ⅰ・Ⅱ[多文化] 国際関係史(中国)Ⅰ・Ⅱ 国際政治理論	国際人権法 開発政治論Ⅰ・Ⅱ[公共] 国際機構論Ⅰ・Ⅱ 国際関係史(日本)Ⅰ・Ⅱ 国際関係史(朝鮮半島)Ⅰ・Ⅱ 国際関係史(アメリカ)Ⅰ・Ⅱ 国際関係史(ロシア)Ⅰ・Ⅱ 日本社会と人権[多文化]	卒業論文(発表会)	
	公共政策・NPO <前期> リーディング・パブリック・ポリシーⅠ・Ⅱ <後期> 公共政策・NPO入門 ミクロ経済学Ⅰ[ビジネス] マクロ経済学Ⅰ 国際開発学[政治] 生涯学習概論	基本統計学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ[ビジネス] 非営利組織論Ⅰ・Ⅱ[ビジネス] 現代社会と法Ⅰ・Ⅱ 組織の経済学Ⅰ・Ⅱ[ビジネス] 金融論[ビジネス] 健康心理学 地域再生論[ビジネス] 地方自治論	基本統計学Ⅱ-i・ii 開発社会学 財政学Ⅰ・Ⅱ 経済政策論Ⅰ[政治]・Ⅱ マクロ経済学Ⅱ スポーツ開発論[ビジネス] Comparative Education 環境社会学	開発プロジェクト論 比較法制度Ⅰ・Ⅱ 交通論[ビジネス]	卒業論文(発表会)	
	多文化共生 <前期> 多文化共生入門 <後期> 社会文化思想史Ⅰ[政治]	テキスト分析法[言語] ジェンダーとセクシュアリティ 社会文化思想史Ⅱ 比較文化論Ⅰ・Ⅱ 文化交流史Ⅰ・Ⅱ 美術史(日本)Ⅰ・Ⅱ フィールドワーク論[言語・公共] マス&ソーシャルメディア論[政治] East Asian Culture and Societies Hiroshima and Atomic Bombing in Media Future StudiesⅠ Pre-modern Japanese Studies	メディア・リテラシー エスニシティと宗教Ⅰ 音楽人類学Ⅰ・Ⅱ 共生の哲学Ⅰ・Ⅱ 美学Ⅰ・Ⅱ 労働と社会	エスニシティと宗教Ⅱ 異文化間交渉論 比較民族学Ⅰ・Ⅱ 美術史(西洋)Ⅰ・Ⅱ 美術史(現代)Ⅰ・Ⅱ Future StudiesⅡ Exploring Japanese Society	卒業論文(発表会)	
	国際ビジネス <前期> 国際ビジネス入門 <後期> 会計学Ⅰ International Commerce	会計学Ⅱ 人的資源管理論 マーケティング論Ⅰ[公共]・Ⅱ 多国籍企業論Ⅰ・Ⅱ 経営史 国際会計論 International Business Introduction to Management	経営戦略論 国際経営論Ⅰ・Ⅱ 財務管理論Ⅰ・Ⅱ 公会計論[公共] 経営組織論	国際貿易論 国際金融論Ⅰ[公共]・Ⅱ 国際ビジネス法務Ⅰ[公共]・Ⅱ テクノロジーマネジメント	卒業論文(発表会)	
	言語・コミュニケーション <後期> 言語・コミュニケーション研究入門A 言語・コミュニケーション研究入門B	応用言語論Ⅰ・Ⅱ 翻訳論Ⅰ・Ⅱ 通訳技法論Ⅰ・Ⅱ フランスの文学と文化[多文化] 日本語学・日本語教育学Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション技法論Ⅰ・Ⅱ イギリスの文学と文化Ⅰ・Ⅱ[多文化] Cross-Cultural Language and CommunicationⅠ・Ⅱ	言語比較論Ⅰ・Ⅱ	英文法論 時事英語 英語学概論Ⅰ・Ⅱ Special Lecture in British and American LiteratureⅠ・Ⅱ Communication in EnglishⅠ・Ⅱ	英語聴解法 英米文学概論Ⅰ・Ⅱ 英文構成法Ⅰ・Ⅱ	卒業論文(発表会)
	5プログラム共通科目(地域研究等) <前期> 地域研究入門 <後期> 日本文化史Ⅰ 東北アジア政治論 ロシア研究 中東アラブ研究入門 アフリカ研究Ⅰ	データ分析Ⅰ・Ⅱ 日本政治論 東南アジア研究 アメリカ政治論Ⅰ・ii イギリス文化論Ⅰ・Ⅱ Modern Japanese Studies American CultureⅠ・Ⅱ	中東アラブ研究 日本文化史Ⅱ 中国文化論Ⅰ・Ⅱ ヨーロッパ政治論 フランス文化論 アフリカ研究Ⅱ-i・ii アフリカ社会と開発 広島と世界	国際日本学 ラテンアメリカ研究Ⅰ・Ⅱ Études de la société française Deutschland und Japan im Vergleich	東アジア研究	
ア ク ティ ブ 科 目	アクティブ科目(国際交流) 国際研究特講Ⅰ・Ⅱ 海外短期英語留学 海外短期フランス語留学 海外短期ロシア語留学 海外短期中国語留学 HIROSHIMA and PEACE アクティブ科目(インターンシップ) 企業インターンシップ 公的機関インターンシップ 学部派遣海外インターンシップ					
	アクティブ科目(演習) <後期> 基礎演習	発展演習Ⅰ	発展演習Ⅱ	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	卒論演習Ⅰ・Ⅱ
	<前期> 国際研究入門 <後期> データ分析入門 専門基礎科目(ベーシック入門科目、ベーシック演習科目、英語スキルアップ科目)	英語読解法Ⅰ・Ⅱ 英文作法Ⅰ・Ⅱ	英語討論技法Ⅰ・Ⅱ	※青色=外国語系科目、外国語による専門科目、国際交流系科目		

情報科学部 4学科共通

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専門基礎科目	解析学Ⅰ	2			1年・前期	
	解析学Ⅰ演習	1			1年・前期	
	線形代数学Ⅰ	2			1年・前期	
	線形代数学Ⅰ演習	1			1年・前期	
	プログラミングⅠ	2			1年・前期	
	プログラミングⅠ演習	1			1年・前期	
	コンピュータ基礎	2			1年・前期	
	情報科学英語	1			1年・第2ターム(前期)	
	解析学Ⅱ		2		1年・後期	
	線形代数学Ⅱ	2			1年・後期	
	実社会指向基礎数学	2			1年・後期	
	プログラミングⅡ	2			1年・後期	
	プログラミングⅡ演習	1			1年・後期	
	データ構造とアルゴリズムⅠ	2			1年・後期	
	情報科学序説		1		1年・第3ターム(後期)	
	離散数学		2		2年・第1ターム(前期)	
	確率統計	2			2年・第1ターム(前期)	
	情報基礎数学		2		2年・第2ターム(前期)	
	幾何学概論			2	2年・第1ターム(前期)	
	情報ネットワーク		2		2年・第1ターム(前期)	
	データ構造とアルゴリズムⅡ		2		2年・第2ターム(前期)	
	実践的AI技術		2		2年・第2ターム(前期)	
	批判的創造的思考法		2		2年・第4ターム(後期)	
	実践的ICT活用事例		2		2年・第4ターム(後期)	
	課題解決型演習		1		2年次	Ⓓ
	システム開発実践		2		3年次	Ⓓ
	情報科学基礎実験a	1			2年次	
	情報科学基礎実験b	1			2年次	
	情報科学基礎実験c	1			2年次	
	情報セキュリティ基礎	2			2年・第3ターム(後期)	
	モデル化とシミュレーション		2		2年・第3ターム(後期)	

注1 学科配属要件

2年次進級が認められた者は、本人の希望と成績により、「情報工学科」「知能工学科」「システム工学科」「医用情報科学科」のいずれかの学科に配属される。

注2 2年次進級要件

2年次以降の情報科学部開設科目については、次の(1)及び(2)に該当する、又は(3)に該当する者でなければ履修の登録を行うことができない。

- (1) 前期を1期及び後期を1期、各期を途中休学することなく履修していること
- (2) 1年次末において、卒業の要件となる128単位のうち、20単位以上を修得していること
- (3) 教授会で認められた者

情報科学部 情報工学科

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	プログラミングⅢ		2		2年・第2ターム(前期)	
	常微分方程式		2		2年・第1ターム(前期)	注4
	観光情報学		2		2年・第2ターム(前期)	④
	高度プログラミングA		1		2年・第1ターム(前期)	
	高度プログラミングB		1		2年・第1ターム(前期)	
	高度プログラミングC		1		2年・第2ターム(前期)	
	高度プログラミングD		1		2年・第2ターム(前期)	
	デジタルデザイン		2		2年・第3ターム(後期)	
	オペレーティングシステム		2		2年・第3ターム(後期)	
	ネットワークプロトコル		2		2年・第3ターム(後期)	
	コンピュータグラフィックスⅠ		2		2年・第4ターム(後期)	注4
	コンピュータアーキテクチャ		2		2年・第4ターム(後期)	
	物理学		2		2年・第4ターム(後期)	
	情報システム開発		2		2年・第3ターム(後期)	
	最適化技法		2		2年・第4ターム(後期)	
	技術者倫理		2		2～4年次・前期	
	情報と職業		2		2～4年次・前期	
	知的財産権		2		2～4年次・前期	
	情報セキュリティ応用		2		3年・第1ターム(前期)	
	データベース		2		3年・第1ターム(前期)	
	技術英語演習	1			3年・第1ターム(前期)	
	情報工学実験Ⅰ	1.5			3年・第1ターム(前期)	
	情報工学実験Ⅱ	1.5			3年・第2ターム(前期)	
	ネットワーク設計		2		3年・第1ターム(前期)	
	コンピュータシステム		2		3年・第2ターム(前期)	
	ネットワーク基盤技術		2		3年・第2ターム(前期)	
	情報理論		2		3年・第2ターム(前期)	
	医用データサイエンス		2		3年・第1ターム(前期)	
	リコンフィギャラブルコンピューティング		2		3年・第3ターム(後期)	
	分散システム		2		3年・第2ターム(前期)	
	ネットワークソフトウェア		2		3年・第2ターム(前期)	
	センサシステム		2		3年・第3ターム(後期)	
	情報工学実験Ⅲ	1.5			3年・第3ターム(後期)	
	情報工学実験Ⅳ	1.5			3年・第4ターム(後期)	
	画像情報処理		2		3年・第4ターム(後期)	注4
	設計最適化手法		2		3年・第4ターム(後期)	

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	信頼性工学		2		3年・第4ターム(後期)	
	ワイヤレスネットワーク		2		3年・第4ターム(後期)	
	トラフィック分析		2		3年・第4ターム(後期)	
	デジタル信号処理		2		3年・第3ターム(後期)	
	プレゼンテーション技法	1			3年・第4ターム(後期)	注3
	技術文書作成法	1			4年次	注3
	卒業研究Ⅰ	4			4年次	注3
	卒業研究Ⅱ	4			4年次	注3

注1 3年次進級要件

3年次以降の情報科学部開設科目については、次の各号のいずれかに該当している者でなければ履修の登録を行うことができない。

- (1) 2年次末において、卒業の要件となる128単位のうち、2年次までの必修の実験、プログラミングⅠ 演習、プログラミングⅡ 演習、eラーニング英語Ⅰ 及びeラーニング英語Ⅱの全単位を含む66単位以上を修得していること
- (2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者

注2 卒業研究着手要件（4年次進級要件）

広島市立大学履修規程第8条に規定する「学長が別に定める要件を満たす」者とは、次の各号のいずれかに該当する者とする。

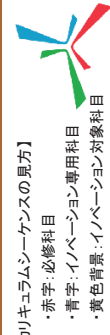
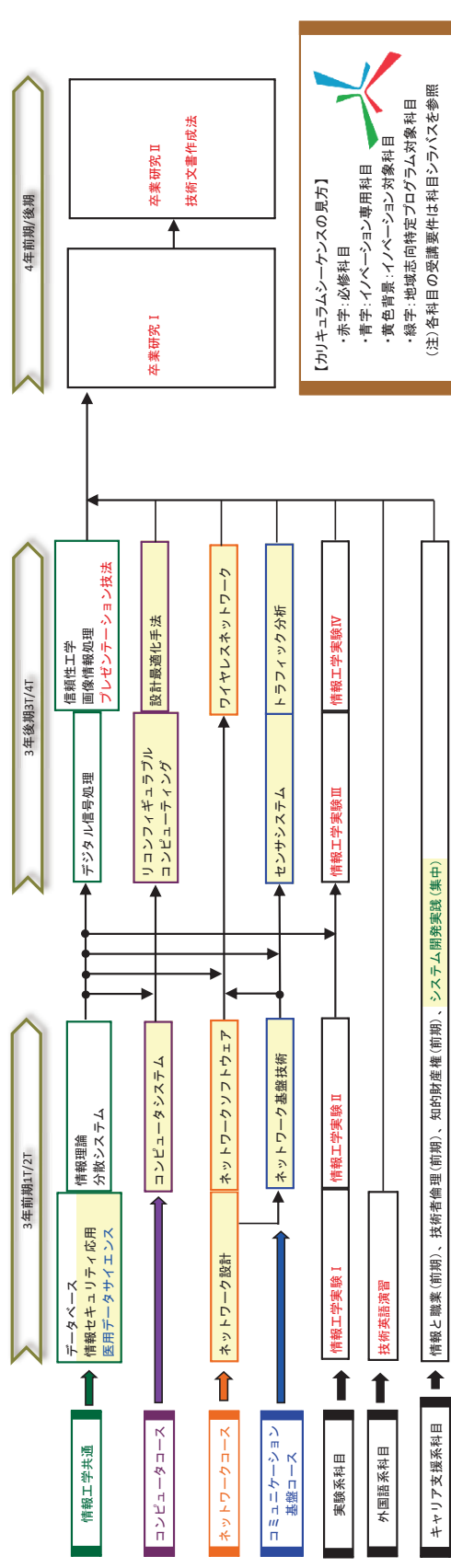
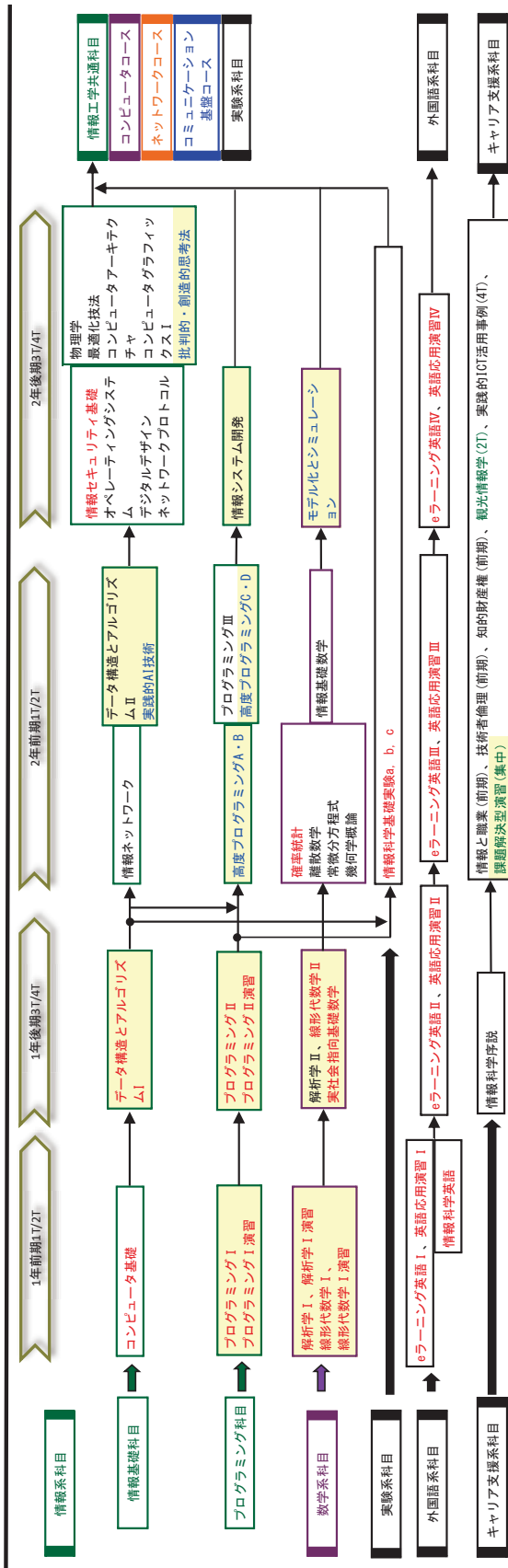
- (1) 3年次末において、卒業の要件となる128単位のうち、3年次までの必修の実験、演習科目（専門教育科目に限る）、eラーニング英語Ⅲ及びeラーニング英語Ⅳの全単位を含む110単位以上を修得していること
- (2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者

注3 卒業研究等履修要件

- (1) 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱはともに履修期間はそれぞれ半期である。
- (2) 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱはともに前後期いずれの学期においても履修は可能であるが、卒業研究Ⅱについては、卒業研究Ⅰの単位修得者にのみ履修が認められる。
- (3) プレゼンテーション技法、技術文書作成法はともに履修期間はそれぞれ半期である。
- (4) 原則として、技術文書作成法は卒業研究Ⅱと同じ履修期に履修すること。

注4 教職課程登録者のみ履修登録可

情報工学科カリキュラムシークエンス



【カリキュラムシークエンスの考え方】

- 赤字:必修科目
- 青字:イノベーション専用科目
- 黄色背景:イノベーション対象科目
- 緑字:地域志向特定プログラム対象科目

(注) 各科目の受講要件は科目シラバスを参照

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	オートマトンと形式言語	2			2年・第2ターム(前期)	
	常微分方程式		2		2年・第1ターム(前期)	注4
	観光情報学		2		2年・第2ターム(前期)	地
	高度プログラミングA		1		2年・第1ターム(前期)	
	高度プログラミングB		1		2年・第1ターム(前期)	
	高度プログラミングC		1		2年・第2ターム(前期)	
	高度プログラミングD		1		2年・第2ターム(前期)	
	数理計画法		2		2年・第3ターム(後期)	
	数理論理学		2		2年・第3ターム(後期)	
	コンピュータグラフィックスⅠ		2		2年・第4ターム(後期)	
	プログラミングⅢ		2		2年・第3ターム(後期)	
	プログラミングⅢ演習		1		2年・第3ターム(後期)	
	グラフ理論		2		2年・第4ターム(後期)	
	オペレーティングシステム		2		2年・第4ターム(後期)	
	ディジタル信号処理		2		2年・第3ターム(後期)	
	数値解析		2		2年・第4ターム(後期)	
	情報システム開発		2		2年・第3ターム(後期)	
	ソフトウェア工学概説		2		3年・第4ターム(後期)	
	技術者倫理		2		2～4年次・前期	
	情報と職業		2		2～4年次・前期	
	知的財産権		2		2～4年次・前期	
	情報理論		2		3年・第1ターム(前期)	
	記号処理プログラミング		2		3年・第1ターム(前期)	
	データベース		2		3年・第1ターム(前期)	
	人工知能		2		3年・第2ターム(前期)	
	技術英語演習Ⅰ	1			3年・第4ターム(後期)	
	知能工学実験Ⅰ	1.5			3年・第1ターム(前期)	
	知能工学実験Ⅱ	1.5			3年・第2ターム(前期)	
	コンパイラ		2		3年・第2ターム(前期)	
	計算論		2		3年・第2ターム(前期)	
	コンピュータグラフィックスⅡ		2		3年・第2ターム(前期)	
	パターン認識		2		3年・第2ターム(前期)	
	情報検索		2		3年・第3ターム(後期)	
	医用データサイエンス		2		3年・第1ターム(前期)	
	自然言語処理		2		3年・第1ターム(前期)	
	医用画像処理		2		3年・第3ターム(後期)	
	データマイニング		2		3年・第3ターム(後期)	
	バイオインフォマティクスⅠ		1		3年・第3ターム(後期)	
	バイオインフォマティクスⅡ		1		3年・第4ターム(後期)	

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	知能工学実験Ⅲ	1.5			3年・第3ターム(後期)	
	知能工学実験Ⅳ	1.5			3年・第4ターム(後期)	
	機械学習		2		3年・第4ターム(後期)	
	感性情報処理		2		3年・第3ターム(後期)	
	画像情報処理		2		3年・第4ターム(後期)	
	プレゼンテーション技法	1			4年次	注3
	技術英語演習Ⅱ	1			4年次	注3
	技術文書作成法	1			4年次	注3
	卒業研究Ⅰ	4			4年次	注3
	卒業研究Ⅱ	4			4年次	注3

注1 3年次進級要件

3年次以降の情報科学部開設科目については、次の各号のいずれかに該当している者でなければ履修の登録を行うことができない。

- (1) 2年次末において、卒業の要件となる128単位のうち、2年次までの必修の実験、プログラミングⅠ演習、プログラミングⅡ演習、eラーニング英語Ⅰ及びeラーニング英語Ⅱの全単位を含む66単位以上を修得していること
- (2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者

注2 卒業研究着手要件（4年次進級要件）

広島市立大学履修規程第8条に規定する「学長が別に定める要件を満たす」者とは、次の各号のいずれかに該当する者とする。

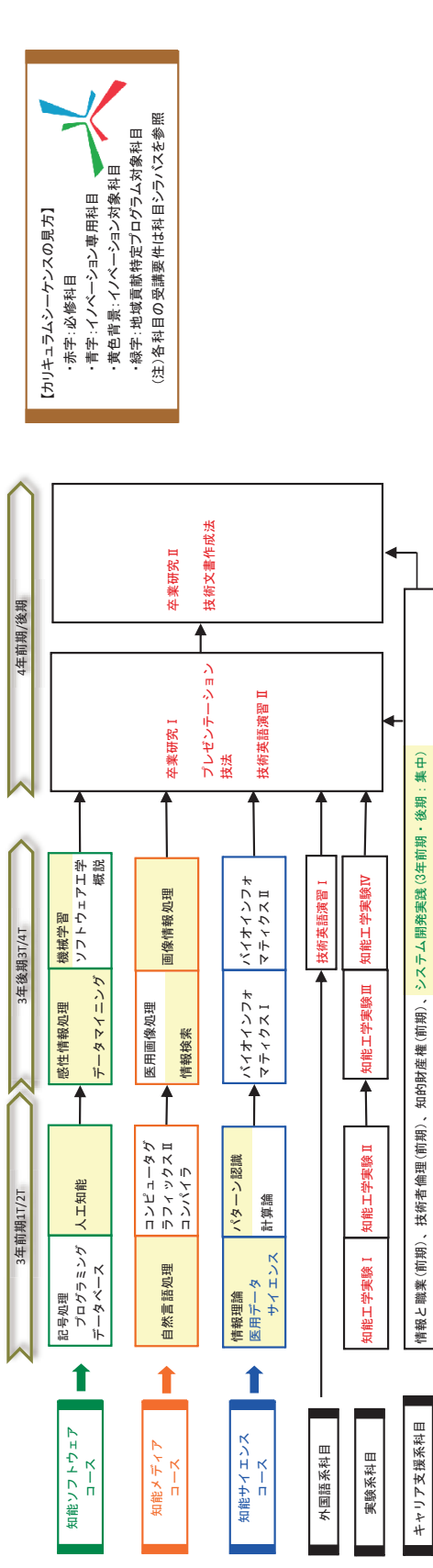
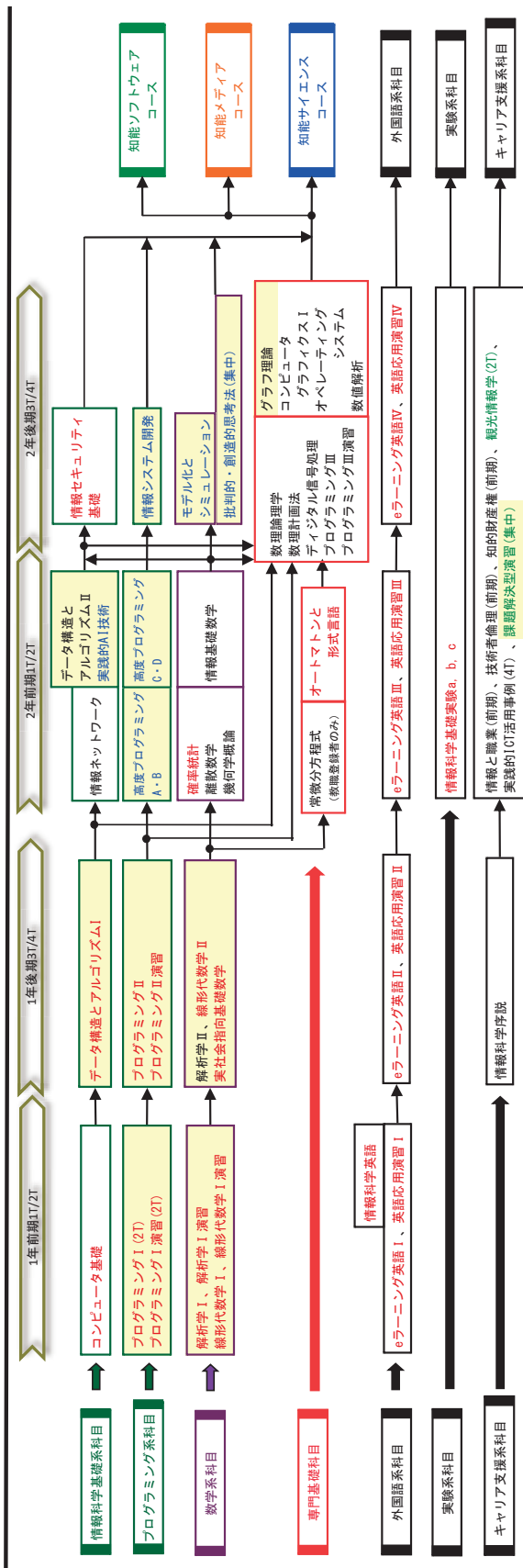
- (1) 3年次末において、卒業の要件となる128単位のうち、3年次までの必修の実験、演習科目（専門教育科目に限る）、eラーニング英語Ⅲ及びeラーニング英語Ⅳの全単位を含む110単位以上を修得していること
- (2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者

注3 卒業研究等履修要件

- (1) 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱはともに履修期間はそれぞれ半期である。
- (2) 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱはともに前後期いずれの学期においても履修は可能であるが、卒業研究Ⅱについては、卒業研究Ⅰの単位修得者にのみ履修が認められる。
- (3) プレゼンテーション技法、技術英語演習Ⅱ、技術文書作成法はともに履修期間はそれぞれ半期である。
- (4) 原則として、プレゼンテーション技法及び技術英語演習Ⅱは卒業研究Ⅰと同じ履修期に、技術文書作成法は卒業研究Ⅱと同じ履修期に履修すること。

注4 教職課程登録者のみ履修登録可

知能工学科カリキュラムシークエンス



【カリキュラムシークエンスの見方】

- 赤字: 必修科目
- 青字: インバースジョン専用科目
- 黄色背景: インバースジョン対象科目
- 緑字: 地域貢献特定プログラム対象科目

(注) 各科目の受講要件は科目シラバスを参照

情報科学部 システム工学科

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	常微分方程式		2		2年・第1ターム(前期)	
	観光情報学		2		2年・第2ターム(前期)	④
	高度プログラミングA		1		2年・第1ターム(前期)	
	高度プログラミングB		1		2年・第1ターム(前期)	
	高度プログラミングC		1		2年・第2ターム(前期)	
	高度プログラミングD		1		2年・第2ターム(前期)	
	電気回路		2		2年・第2ターム(前期)	
	プログラミングⅢ		2		2年・第1ターム(前期)	
	プログラミングⅢ演習		1		2年・第2ターム(前期)	
	物理学		2		2年・第4ターム(後期)	
	情報理論		2		2年・第1ターム(前期)	
	応用幾何学		2		2年・第3ターム(後期)	
	情報システム開発		2		2年・第3ターム(後期)	
	機械力学		2		2年・第3ターム(後期)	
	電子回路		2		2年・第4ターム(後期)	
	コンピュータグラフィックス		2		2年・第4ターム(後期)	
	離散時間システム		2		2年・第4ターム(後期)	
	オペレーティングシステム		2		2年・第3ターム(後期)	
	数値計算法		2		3年・第1ターム(前期)	
	知的財産権		2		2～4年・前期	
	情報と職業		2		2～4年・前期	
	技術者倫理		2		2～4年・前期	
	システム工学実験Ⅰ	1.5			3年・第1ターム(前期)	
	システム工学実験Ⅱ	1.5			3年・第2ターム(前期)	
	メカトロニクス		2		3年・第2ターム(前期)	
	制御工学Ⅰ		2		3年・第2ターム(前期)	
	ロボティクスⅠ		2		3年・第1ターム(前期)	
	最適化手法		2		3年・第1ターム(前期)	
	デジタル無線通信		2		3年・第2ターム(前期)	
	外書講読演習	1			3年・第2ターム(前期)	
	情報代数学		2		3年・第1ターム(前期)	
	確率過程論		2		3年・第1ターム(前期)	
	データベース		2		3年・第1ターム(前期)	注4
	ヒューマンインタフェースⅠ		2		3年・第1ターム(前期)	
	医用データサイエンス		2		3年・第1ターム(前期)	
	ヒューマンインタフェースⅡ		2		3年・第2ターム(前期)	
	ソフトウェア工学概論		2		3年・第3ターム(後期)	

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	画像情報処理		2		3年・第1ターム(前期)	
	制御工学Ⅱ		2		3年・第3ターム(後期)	
	偏微分方程式		2		3年・第4ターム(後期)	
	ロボティクスⅡ		2		3年・第3ターム(後期)	
	パターン認識		2		3年・第2ターム(前期)	
	情報セキュリティ応用		2		3年・第4ターム(後期)	
	ソフトコンピューティング		2		3年・第4ターム(後期)	
	システム工学実験Ⅲ	1.5			3年・第3ターム(後期)	
	システム工学実験Ⅳ	1.5			3年・第4ターム(後期)	
	プレゼンテーション技法	1			4年次	注3
	技術文書作成法	1			4年次	注3
	卒業研究Ⅰ	4			4年次	注3
	卒業研究Ⅱ	4			4年次	注3

注1 3年次進級要件

3年次以降の情報科学部開設科目については、次の各号のいずれかに該当している者でなければ履修の登録を行うことができない。

- (1) 2年次末において、卒業の要件となる128単位のうち、2年次までの必修の実験、プログラミングⅠ 演習、プログラミングⅡ 演習、eラーニング英語Ⅰ及びeラーニング英語Ⅱの全単位を含む66単位以上を修得していること
- (2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者

注2 卒業研究着手要件（4年次進級要件）

広島市立大学履修規程第8条に規定する「学長が別に定める要件を満たす」者とは、次の各号のいずれかに該当する者とする。

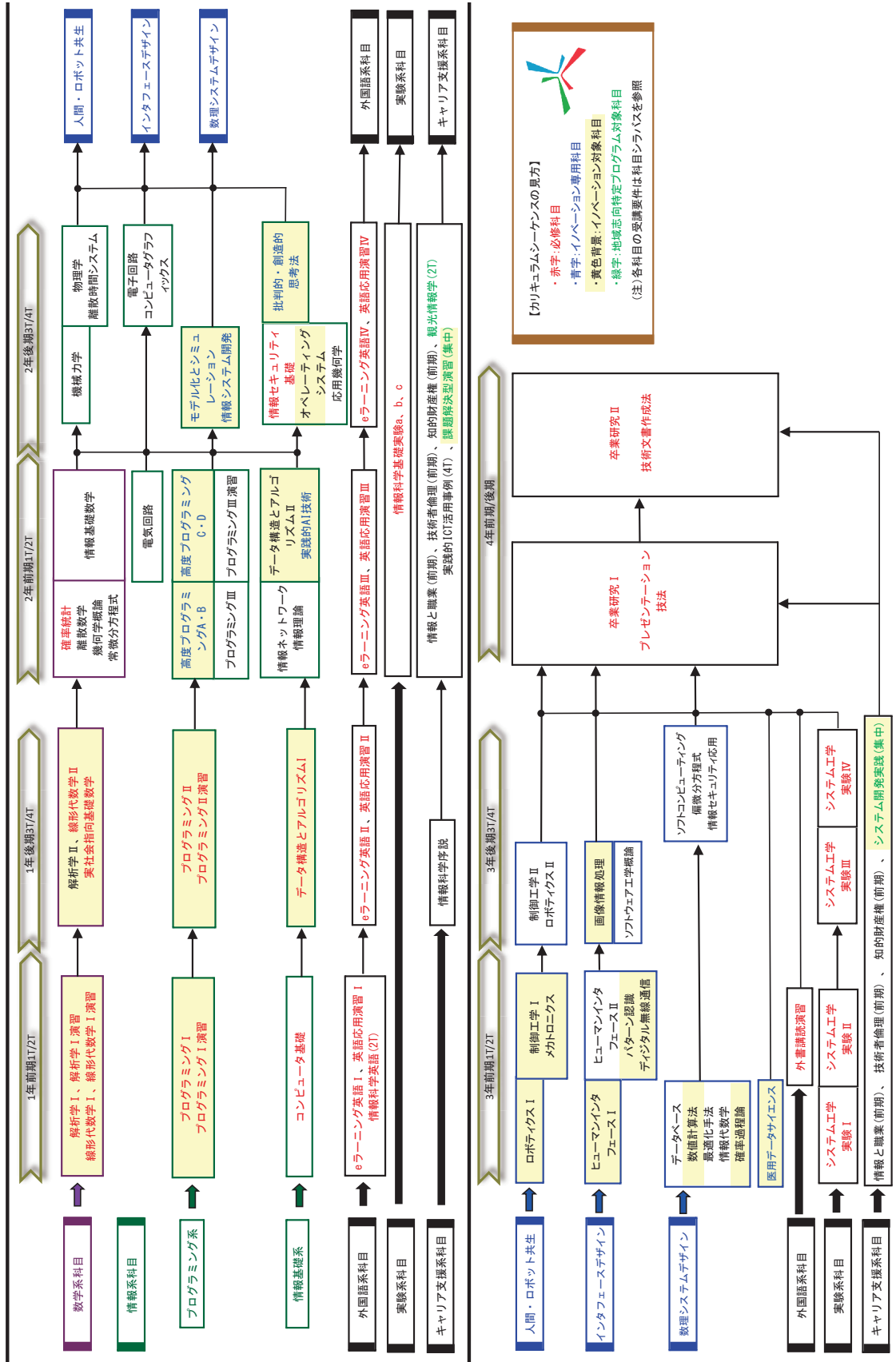
- (1) 3年次末において、卒業の要件となる128単位のうち、3年次までの必修の実験、演習科目（専門教育科目に限る）、eラーニング英語Ⅲ及びeラーニング英語Ⅳの全単位を含む110単位以上を修得していること
- (2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者

注3 卒業研究等履修要件

- (1) 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱはともに履修期間はそれぞれ半期である。
- (2) 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱはともに前後期いずれの学期においても履修は可能であるが、卒業研究Ⅱについては、卒業研究Ⅰの単位修得者にのみ履修が認められる。
- (3) プレゼンテーション技法、技術文書作成法はともに履修期間はそれぞれ半期である。
- (4) 原則として、プレゼンテーション技法は卒業研究Ⅰと同じ履修期に、技術文書作成法は卒業研究Ⅱと同じ履修期に履修すること。

注4 教職課程登録者のみ履修登録可

システム工学科カリキュラムシークエンス



情報科学部 医用情報科学科

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	化学		2		2年・第2ターム(前期)	
	観光情報学		2		2年・第2ターム(前期)	④
	高度プログラミングA		1		2年・第1ターム(前期)	
	高度プログラミングB		1		2年・第1ターム(前期)	
	高度プログラミングC		1		2年・第2ターム(前期)	
	高度プログラミングD		1		2年・第2ターム(前期)	
	回路工学基礎Ⅰ		1		2年・第1ターム(前期)	
	回路工学基礎Ⅱ		1		2年・第2ターム(前期)	
	医科学概論Ⅰ		1		2年・第1ターム(前期)	
	医科学概論Ⅱ		1		2年・第2ターム(前期)	
	力学		2		2年・第4ターム(後期)	
	幾何光学・波動		2		2年・第3ターム(後期)	
	電気磁気学		2		2年・第4ターム(後期)	
	プログラミングⅢ		2		2年・第4ターム(後期)	
	回路工学応用		2		2年・第3ターム(後期)	
	生物学Ⅰ		1		2年・第3ターム(後期)	
	生物学Ⅱ		1		2年・第4ターム(後期)	
	医用情報システム開発		2		2年・第4ターム(後期)	
	オペレーティングシステム		2		2年・第3ターム(後期)	注4
	情報システム開発		2		2年・第3ターム(後期)	
	情報と職業		2		2～4年・前期	
	技術者倫理		2		2～4年・前期	
	知的財産権		2		2～4年・前期	
	技術英語実践演習Ⅰ	0.5			3年・第1ターム(前期)	
	技術英語実践演習Ⅱ	0.5			3年・第2ターム(前期)	
	医用情報科学実験Ⅰ	1.5			3年・第1ターム(前期)	
	医用情報科学実験Ⅱ	1.5			3年・第2ターム(前期)	
	医用データサイエンス		2		3年・第1ターム(前期)	
	医用情報科学のための病院実習		1		3年・第2ターム(前期)	
	ディジタル信号処理		2		3年・第1ターム(前期)	
	機械工学		2		3年・第1ターム(前期)	
	データベース		2		3年・第1ターム(前期)	注4
	量子力学		1		3年・第1ターム(前期)	
	統計力学		1		3年・第2ターム(前期)	
	制御工学		2		3年・第2ターム(前期)	
	電気電子計測		2		3年・第2ターム(前期)	
	分子生物学Ⅰ		1		3年・第1ターム(前期)	
	分子生物学Ⅱ		1		3年・第2ターム(前期)	

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	医用生体画像計測		2		3年・第2ターム(前期)	
	バイオインフォマティクスⅠ		1		3年・第3ターム(後期)	
	バイオインフォマティクスⅡ		1		3年・第4ターム(後期)	
	生物工学		2		3年・第4ターム(後期)	
	ワイヤレスネットワーク		2		3年・第4ターム(後期)	注4
	医用画像処理		2		3年・第3ターム(後期)	
	医用ロボット工学		2		3年・第4ターム(後期)	
	バイオメカニクス		2		3年・第3ターム(後期)	
	生体情報工学		2		3年・第3ターム(後期)	
	医用情報通信工学		2		3年・第4ターム(後期)	
	医用情報科学実験Ⅲ	1.5			3年・第3ターム(後期)	
	医用情報科学実験Ⅳ	1.5			3年・第4ターム(後期)	
	プレゼンテーション技法	1			4年次	注3
	技術文書作成法	1			4年次	注3
	卒業研究Ⅰ	4			4年次	注3
	卒業研究Ⅱ	4			4年次	注3

注1 3年次進級要件

3年次以降の情報科学部開設科目については、次の各号のいずれかに該当している者でなければ履修の登録を行うことができない。

- (1) 2年次末において、卒業の要件となる128単位のうち、2年次までの必修の実験、プログラミングⅠ 演習、プログラミングⅡ 演習、eラーニング英語Ⅰ及びeラーニング英語Ⅱの全単位を含む66単位以上を修得していること
- (2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者

注2 卒業研究着手要件（4年次進級要件）

広島市立大学履修規程第8条に規定する「学長が別に定める要件を満たす」者とは、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 3年次末において、卒業の要件となる128単位のうち、3年次までの必修の実験、演習科目（専門教育科目に限る）、eラーニング英語Ⅲ及びeラーニング英語Ⅳの全単位を含む110単位以上を修得していること
- (2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者

注3 卒業研究等履修要件

- (1) 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱはともに履修期間はそれぞれ半期である。
- (2) 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱはともに前後期いずれの学期においても履修は可能であるが、卒業研究Ⅱについては、卒業研究Ⅰの単位修得者にのみ履修が認められる。
- (3) プレゼンテーション技法、技術文書作成法はともに履修期間はそれぞれ半期である。
- (4) 原則として、プレゼンテーション技法は卒業研究Ⅰと同じ履修期に、技術文書作成法は卒業研究Ⅱと同じ履修期に履修すること。

注4 教職課程登録者のみ履修登録可

芸術学部 美術学科、デザイン工芸学科共通

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専門基礎科目	現代美術演習Ⅰ		2		1年次	
	デザイン概論		2		1年・前期	注2
	工芸概論		2		1年・前期	注2
	絵画材料論		2		1年・前期	
	美術解剖学Ⅰ		2		1年・前期	注1
	美術解剖学Ⅱ		2		1年・後期	注1
	油絵入門		2		1年・第3ターム(後期)	
	日本画入門		2		1年・第3ターム(後期)	
	色彩論		2		1年・後期	注2
	図法及び製図		2		2年・後期	注2
	材料技法演習(木工)		1		2年・第3ターム(後期)	
	材料技法演習(塗装)		1		2年・第4ターム(後期)	
	現代美術演習Ⅱ		2		2年次	
	芸術工学		2		2年・前期	
	工芸材料概説		2		2年・前期	
	写真／映像概論		2		2年・前期	
	西洋美術史Ⅰ		2		2年・前期	
	現代美術史Ⅰ		2		2年・前期	
	西洋美術史Ⅱ		2		2年・後期	
	現代美術史Ⅱ		2		2年・後期	
	版画制作演習		2		2年・後期	
	絵画論		2		2年・後期	
	アートマネジメント概論		2		2年・後期	㊦
	アーティスト・セルフマネジメント概論		2		2年・後期	
	文化財学研究		2		3年・前期	
	彫刻概論		2		3年・前期	注3
	美学Ⅰ		2		2年・前期	
	日本美術史Ⅰ		2		2年・前期	
	東洋美術史Ⅰ		2		3年・前期	
	美学Ⅱ		2		2年・後期	
	日本美術史Ⅱ		2		2年・後期	
	東洋美術史Ⅱ		2		3年・後期	
	現代美術論		2		3年・後期	
	造形応用研究Ⅰ		2		1～4年次	㊦
	造形応用研究Ⅱ		2		2～4年次	㊦
	地域実践演習		1		3年次	㊦
	芸術と知的財産権		1		3年・第3ターム(後期)	
	専門演習Ⅰ			3	1～4年次	注4

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専門基礎科目	専門演習Ⅱ			3	1～4年次	注4
	専門演習Ⅲ			3	1～4年次	注4
	専門演習Ⅳ			3	1～4年次	注4

注1 「美術解剖学Ⅰ」「美術解剖学Ⅱ」は、美術学科彫刻専攻の学生は履修することが望ましい。

2 「デザイン概論」「工芸概論」「色彩論」「図法及び製図」は選択科目ではあるが、デザイン工芸学科の学生は履修することが望ましい。

3 美術学科彫刻専攻の学生は、この科目ではなく、専門科目の「彫刻論（古典研究を含む。）」（必修）を履修すること。

4 特別聴講学生（交換留学生）対象科目です。

芸術学部 美術学科 日本画専攻

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専門基礎科目	工芸制作A（演習）		2		2年・前期	
専門科目	日本画実習ⅠA	4			1年・前期	
	日本画実習ⅠB	4			1年・後期	
	材料実習Ⅰ	2			1年・前期	
	デッサン実習Ⅰ	2			1年・後期	
	構成演習Ⅰ（平面）	2			1年・後期	
	日本画実習ⅡA	6			2年・前期	
	日本画実習ⅡB	4			2年・後期	
	デッサン実習Ⅱ	2			2年・前期	
	構成演習Ⅱ（平面）	1			2年・後期	
	材料実習Ⅱ（金属材料）	2			2年・後期	
	彫塑演習	2			2年・後期	
	日本画実習ⅢA	6			3年・前期	
	日本画実習ⅢB	4			3年・後期	
	古美術研究（演習）	6			3年次	
	デッサン実習Ⅲ	2			3年・後期	
	材料実習Ⅲ	2			3年・前期	
	構成実習（平面）	2			3年・後期	
	日本画実習Ⅳ	10			4年次	
	絵画論演習	2			4年・後期	
	技法演習（裏打技法）	2			4年・前期	
	卒業制作（演習）	9			4年・後期	

注 卒業制作着手要件

広島市立大学履修規程第8条に規定する「学長が別に定める要件を満たす」者とは、美術学科においては、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 次に掲げる条件を満たす者

3年次末において、卒業の要件となる128単位のうち、90単位以上を修得していること

(2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者

芸術学部 美術学科 油絵専攻

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専門基礎科目	工芸制作A（演習）		2		2年・前期	
専門科目	油絵基礎演習	2			1年・前期	
	デッサン実習Ⅰ	4			1年・前期	
	構成演習Ⅰ	2			1年・前期	
	油絵実習Ⅰ	4			1年・後期	
	彫塑演習	2			1年・後期	
	版画制作実習Ⅰ	2			1年・後期	
	油絵実習ⅡA	5			2年・前期	
	版画制作実習Ⅱ	3			2年・前期	
	学外演習	2			2年・後期	
	油絵実習ⅡB	2			2年・後期	
	デッサン実習Ⅱ	2			2年・後期	
	構成演習Ⅱ	2			2年・後期	
	油絵材料・技法演習（古典技法）	2			2年・後期	
	古美術研究（演習）	6			3年次	
	構成演習Ⅲ	2			3年・前期	
	油絵実習ⅢA	6			3年・前期	
	デッサン実習Ⅲ	2			3年・後期	
	油絵実習ⅢB	6			3年・後期	
	油絵実習ⅣA	6			4年・前期	
	卒業制作A（演習）	4			4年・前期	
	油絵実習ⅣB	6			4年・後期	
	卒業制作B（演習）	4			4年・後期	

注 卒業制作着手要件

広島市立大学履修規程第8条に規定する「学長が別に定める要件を満たす」者とは、美術学科においては、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 次に掲げる条件を満たす者

卒業の要件となる128単位のうち、90単位以上を修得していること

(2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者

芸術学部 美術学科 彫刻専攻

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専門基礎科目	工芸制作A（演習）		2		2年・前期	
専門科目	彫刻実習Ⅰ	8			1年次	
	デッサン実習Ⅰ	2			1年次	
	構成演習Ⅰ	2			1年・前期	
	実材制作基礎演習 （工芸制作を含む。）	4			1年・後期	
	彫刻実習ⅡA	6			2年・前期	
	彫刻実習ⅡB	4			2年・後期	
	デッサン実習Ⅱ	2			2年・後期	
	実材制作実習Ⅰ	2			2年・前期	
	構成実習Ⅱ（平面・立体）	2			2年・後期	
	彫刻実習ⅢA	6			3年・前期	
	彫刻実習ⅢB	4			3年・後期	
	古美術研究（演習）	6			3年次	
	実材制作実習Ⅱ	2			3年・後期	
	彫刻論（古典研究を含む。）	2			3年・前期	
	構成実習Ⅲ（立体）	2			3年・後期	
	デッサン実習Ⅲ	2			3年・前期	
	彫刻実習Ⅳ	10			4年次	
	卒業制作	10			4年次	

注 卒業制作着手要件

広島市立大学履修規程第8条に規定する「学長が別に定める要件を満たす」者とは、美術学科においては、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 次に掲げる条件を満たす者

卒業の要件となる128単位のうち、90単位以上を修得していること

(2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者

芸術学部 デザイン工芸学科

科目区分	授業科目名	単位数			開設年次 及び学期	備考
		必修	選択	自由		
専門基礎科目	工芸制作 B（演習）		2		2年・前期	
専門科目	造形実習Ⅰ A	4			1年・前期	
	描出演習Ⅰ	2			1年・後期	
	造形実習Ⅰ B	4			1年・後期	
	形体演習Ⅰ	2			1年・前期	
	総合表現研究（演習）	2			2年次	
	造形実習Ⅱ A	6			2年・前期	
	形体演習Ⅱ	2			2年・前期	
	造形実習Ⅱ B	6			2年・後期	
	描出演習Ⅱ	2			2年・後期	
	古美術研究（演習）	4			3年次	
	テーマ研究（演習）	6			3年次	
	造形実習Ⅲ A	6			3年・前期	
	造形実習Ⅲ B	6			3年・後期	
	造形研究（演習）	12			4年・前期	
	卒業制作（演習）	12			4年・後期	

注 卒業制作着手要件

広島市立大学履修規程第8条に規定する「学長が別に定める要件を満たす」者とは、デザイン工芸学科においては、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 次に掲げる条件を満たす者

3年次末において、卒業の要件となる128単位のうち、90単位以上を修得していること

(2) 学科の推薦を受け、教授会で認められた者

教育職員免許状受領資格取得関係科目表

教育職員免許状を取得するためには、以下に記載する「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「大学が独自に設定する科目」から **合計59単位以上** 修得するとともに、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を修得する必要があります。（中学校教諭一種免許状にあっては、「介護等体験」も必要です。）【56ページ参照】

1. 教科及び教科の指導法に関する科目

(1) 国際学部 国際学科

免許種：中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目		中 一 種 免	高 一 種 免	備 考
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数			
教科に 関する 専門的 事項	英 語 学	中一種免 28単位 高一種免 24単位	英語学概論Ⅰ	2	○	○	※中学校教諭一種免 許状を「中一種免」、 高等学校教諭一種免 許状を「高一種免」 で表示。
			英語学概論Ⅱ	2	○	○	
	英 語 文 学		英文法論	2	●	●	
			英米文学概論Ⅰ	2	○	○	
			英米文学概論Ⅱ	2	○	○	
			Special Lecture in British and American LiteratureⅠ	2	●	●	
			Special Lecture in British and American LiteratureⅡ	2	●	●	
			英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	Communication in EnglishⅠ	1	○	
	Communication in EnglishⅡ			1	○	○	
	英語聴解法			2	●	●	
	英文構成法Ⅰ			2	●	●	
	英文構成法Ⅱ			2	●	●	
	時事英語			2	●	●	
	英語読解法Ⅰ			2	●	●	
	英語読解法Ⅱ			2	●	●	
	英文作法Ⅰ			2	●	●	
	英文作法Ⅱ			2	●	●	
	異 文 化 理 解		英語討論技法Ⅰ	2	●	●	
			英語討論技法Ⅱ	2	●	●	
			翻訳論Ⅰ	2	●	●	
			翻訳論Ⅱ	2	●	●	
			イギリス文化論Ⅰ	2	○	○	
			イギリス文化論Ⅱ	2	○	○	
			American CultureⅠ	2	○	○	
			American CultureⅡ	2	○	○	
			コミュニケーション技法論Ⅰ	2	●	●	
			コミュニケーション技法論Ⅱ	2	●	●	
	各 教 科 の 指 導 法 (情報通信技術の 活用を含む。)		教科教育法（英語）AⅠ	2	○	●	
教科教育法（英語）AⅡ		2	○	●			
教科教育法（英語）BⅠ		2	○	○			
教科教育法（英語）BⅡ		2	○	○			

(2) 情報科学部 情報工学科

①免許種：高等学校教諭一種免許状（数学）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する開設授業科目		必修・ 選択の 別	備 考
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数		
教科に 関する 専門 的事 項	代 数 学	24単位	線形代数学Ⅰ	2	○	※免許取得における 必修科目を「○」、選 択科目を「●」で表示。 (卒業要件における必 修・選択・自由の区 分については、教育 課程表（7ページから 39ページ）を参照す ること。)
			線形代数学Ⅱ	2	○	
	幾 何 学		幾何学概論	2	○	
			離散数学	2	○	
	解 析 学		解析学Ⅰ	2	○	
			解析学Ⅱ	2	○	
			常微分方程式（注１）	2	●	
	「確率論、統計学」		情報基礎数学	2	●	
			確率統計	2	○	
	コ ン ピ ュ ー タ		情報理論	2	●	
			データ構造とアルゴリズムⅠ	2	○	
			プログラミングⅠ	2	○	
			プログラミングⅠ 演習	1	○	
			実社会指向基礎数学	2	●	
			コンピュータアーキテクチャ	2	●	
			コンピュータシステム	2	●	
			デジタルデザイン	2	●	
各 教 科 の 指 導 法 (情報通信技術の 活用を含む。)	最適化技法	2	●			
	教科教育法（数学）Ⅰ	2	○			
	教科教育法（数学）Ⅱ	2	○			
※最低修得単位数を 超えて修得した単位 は、「大学が独自に設 定する科目」の単位 数に算入することが できる。						

(注1) 教職課程登録者のみ履修登録可

②免許種：高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する開設授業科目		必修・ 選択の 別	備 考
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数		
教科に 関する 専門的 事項	情報社会（職業 に関する内容を 含む）・情報倫理	24単位	情報社会論（注1）	2	○	※免許取得における 必修科目を「○」、選 択科目を「●」で表示。 （卒業要件における必 修・選択・自由の区 分については、教育 課程表（7ページから 39ページ）を参照す ること。） ※最低修得単位数を 超えて修得した単位 は、「大学が独自に設 定する科目」の単位 数に算入することが できる。
			知的財産権	2	○	
			情報と職業	2	○	
	コンピュータ・ 情 報 処 理		コンピュータ基礎	2	○	
			プログラミングⅡ	2	○	
			プログラミングⅡ 演習	1	○	
			プログラミングⅢ	2	●	
			情報科学基礎実験 a	1	○	
			情報科学基礎実験 b	1	○	
			情報科学基礎実験 c	1	○	
			データ構造とアルゴリズムⅡ	2	●	
			情報システム開発	2	●	
	情報システム		データベース	2	○	
			オペレーティングシステム	2	○	
			システム開発実践	2	●	
	情 報 通 信 ネットワーク		情報ネットワーク	2	○	
			情報セキュリティ基礎	2	●	
			デジタル信号処理	2	●	
			ネットワーク設計	2	●	
			ワイヤレスネットワーク	2	●	
			ネットワークプロトコル	2	●	
			コンピュータグラフィックスⅠ（注2）	2	○	
	マルチメディア 表 現・ マ ル チ メ デ ィ ア 技 術		画像情報処理（注2）	2	○	
			ネットワーク基盤技術	2	●	
			教科教育法（情報）Ⅰ	2	○	
	各 教 科 の 指 導 法 （情報通信技術の 活用を含む。）		教科教育法（情報）Ⅱ	2	○	

（注1） 全学共通系科目

（注2） 教職課程登録者のみ履修登録可

(3) 情報科学部 知能工学科

①免許種：高等学校教諭一種免許状（数学）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する開設授業科目		必修・ 選択の 別	備 考
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数		
教科に 関する専 門的事項	代 数 学	24単位	線形代数学Ⅰ	2	○	※免許取得における 必修科目を「○」、選 択科目を「●」で表示。 (卒業要件における必 修・選択・自由の区 分については、教育 課程表（7ページから 39ページ）を参照す ること。） ※最低修得単位数を 超えて修得した単位 は、「大学が独自に設 定する科目」の単位 数に算入することが できる。
			線形代数学Ⅱ	2	○	
	幾 何 学		幾何学概論	2	○	
			離散数学	2	○	
			グラフ理論	2	●	
			パターン認識	2	●	
	解 析 学		解析学Ⅰ	2	○	
			解析学Ⅱ	2	○	
			常微分方程式（注１）	2	●	
			情報基礎数学	2	●	
	「確率論、統計学」		数値解析	2	●	
			確率統計	2	○	
	コンピュータ		情報理論	2	●	
			オートマトンと形式言語	2	●	
			データ構造とアルゴリズムⅠ	2	○	
			プログラミングⅠ	2	○	
			プログラミングⅠ 演習	1	○	
			実社会指向基礎数学	2	●	
			数理論理学	2	●	
			計算論	2	●	
各教科の指導法 (情報通信技術の 活用を含む。)		教科教育法（数学）Ⅰ	2	○		
	教科教育法（数学）Ⅱ	2	○			

(注1) 教職課程登録者のみ履修登録可

②免許種：高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する開設授業科目		必修・ 選択の 別	備 考			
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数					
教 科 に 関 す る 専 門 的 事 項	情報社会（職業に関する内容を含む）・情報倫理	24単位	情報社会論（注１）	2	○	※免許取得における必修科目を「○」、選択科目を「●」で表示。 （卒業要件における必修・選択・自由の区分については、教育課程表（７ページから39ページ）を参照すること。） ※最低修得単位数を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入することができる。			
			知的財産権	2	○				
			情報と職業	2	○				
	コンピュータ・情 報 処 理		コンピュータ基礎	2	○				
			プログラミングⅡ	2	○				
			プログラミングⅡ 演習	1	○				
			プログラミングⅢ	2	●				
			プログラミングⅢ 演習	1	●				
			情報科学基礎実験 a	1	○				
			情報科学基礎実験 b	1	○				
			情報科学基礎実験 c	1	○				
			データ構造とアルゴリズムⅡ	2	●				
			コンパイラ	2	●				
			記号処理プログラミング	2	●				
			ソフトウェア工学概説	2	●				
	情 報 シ ス テ ム		データベース	2	○				
			オペレーティングシステム	2	○				
			情報検索	2	●				
			人工知能	2	●				
			システム開発実践	2	●				
	情 報 通 信 ネ ャ ヲ ワ ー ク		情報ネットワーク	2	○				
			情報セキュリティ基礎	2	●				
	マルチメディア 表 現 ・ マ ル チ メ デ ィ ア 技 術		コンピュータグラフィックスⅠ	2	○				
			画像情報処理	2	○				
			デジタル信号処理	2	●				
			コンピュータグラフィックスⅡ	2	●				
	各 教 科 の 指 導 法 (情報通信技術の活用を含む。)			教科教育法（情報）Ⅰ	2		○		
				教科教育法（情報）Ⅱ	2		○		

（注1） 全学共通系科目

(4) 情報科学部 システム工学科

①免許種：高等学校教諭一種免許状（数学）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する開設授業科目		必修・ 選択の 別	備 考
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数		
教科に 関する 専門的 事項	代 数 学	24単位	線形代数学Ⅰ	2	○	※免許取得における 必修科目を「○」、選 択科目を「●」で表示。 (卒業要件における必 修・選択・自由の区 分については、教育 課程表（7ページから 39ページ）を参照す ること。)
			線形代数学Ⅱ	2	○	
			情報代数学	2	●	
	幾 何 学		幾何学概論	2	○	
			離散数学	2	○	
			応用幾何学	2	●	
	解 析 学		パターン認識	2	●	
			解析学Ⅰ	2	○	
			解析学Ⅱ	2	○	
			常微分方程式	2	●	
			情報基礎数学	2	●	
			数値計算法	2	●	
	「確率論、統計学」		偏微分方程式	2	●	
			確率統計	2	○	
			情報理論	2	●	
			確率過程論	2	●	
	コンピュータ		データ構造とアルゴリズムⅠ	2	○	
			プログラミングⅠ	2	○	
			プログラミングⅠ 演習	1	○	
			実社会指向基礎数学	2	●	
各教科の指導法 (情報通信技術の 活用を含む。)			教科教育法（数学）Ⅰ	2	○	※最低修得単位数を 超えて修得した単位 は、「大学が独自に設 定する科目」の単位 数に算入することが できる。
			教科教育法（数学）Ⅱ	2	○	

②免許種：高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する開設授業科目		必修・ 選択の 別	備 考	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数			
教科に 関する 専門的 事項	情報社会（職業 に関する内容を 含む）・情報倫理	24単位	情報社会論（注１）	2	○	※免許取得における 必修科目を「○」、選 択科目を「●」で表示。 （卒業要件における必 修・選択・自由の区 分については、教育 課程表（７ページから 39ページ）を参照す ること。） ※最低修得単位数を 超えて修得した単位 は、「大学が独自に設 定する科目」の単位 数に算入することが できる。	
			知的財産権	2	○		
			情報と職業	2	○		
	コンピュータ・ 情 報 処 理		コンピュータ基礎	2	○		
			プログラミングⅡ	2	○		
			プログラミングⅡ 演習	1	○		
			プログラミングⅢ	2	●		
			プログラミングⅢ 演習	1	●		
			情報科学基礎実験 a	1	○		
			情報科学基礎実験 b	1	○		
			情報科学基礎実験 c	1	○		
			データ構造とアルゴリズムⅡ	2	●		
			電子回路	2	●		
			離散時間システム	2	●		
			制御工学Ⅰ	2	●		
			ソフトコンピューティング	2	●		
			ソフトウェア工学概論	2	●		
			情報システム	データベース（注2)	2		○
				オペレーティングシステム	2		○
	ヒューマンインタフェースⅠ			2	●		
	システム開発実践			2	●		
	情 報 通 信 ネ ッ ト ワ ー ク		情報ネットワーク	2	○		
			情報セキュリティ応用	2	●		
			デジタル無線通信	2	●		
	マルチメディア 表 現 ・ マ ル チ メ デ ィ ア 技 術		コンピュータグラフィックス	2	○		
			画像情報処理	2	○		
各 教 科 の 指 導 法 (情報通信技術の 活用を含む。)			教科教育法（情報）Ⅰ	2	○		
			教科教育法（情報）Ⅱ	2	○		

（注1） 全学共通系科目

（注2） 教職課程登録者のみ履修登録可

(5) 情報科学部 医用情報科学科
免許種：高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する開設授業科目		必修・ 選択の 別	備 考		
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数				
教科に 関する専 門的事 項	情報社会（職業 に関する内容を 含む）・情報倫理	24単位	情報社会論（注1）	2	○	※免許取得における 必修科目を「○」、選 択科目を「●」で表示。 （卒業要件における必 修・選択・自由の区 分については、教育 課程表（7ページから 39ページ）を参照す ること。） ※最低修得単位数を 超えて修得した単位 は、「大学が独自に設 定する科目」の単位 数に算入することが できる。		
			知的財産権	2	○			
			情報と職業	2	○			
	コンピュータ・ 情 報 処 理		コンピュータ基礎	2	○			
			プログラミングⅡ	2	○			
			プログラミングⅡ 演習	1	○			
			電気電子計測	2	●			
			情報科学基礎実験 a	1	○			
			情報科学基礎実験 b	1	○			
			情報科学基礎実験 c	1	○			
			データ構造とアルゴリズムⅡ	2	●			
			デジタル信号処理	2	●			
	情 報 シ ス テ ム		データベース（注2）	2	○			
			オペレーティングシステム（注2）	2	○			
	情 報 通 信 ネ ッ ト ワ ー ク		情報ネットワーク	2	○			
			情報セキュリティ基礎	2	●			
	マルチメディア 表 現 ・ マ ル チ メ デ ィ ア 技 術		ワイヤレスネットワーク（注2）	2	●			
			医用画像処理	2	○			
	各教科の指導法 （情報通信技術の 活用を含む。）			教科教育法（情報）Ⅰ	2		○	
				教科教育法（情報）Ⅱ	2		○	

（注1） 全学共通系科目

（注2） 教職課程登録者のみ履修登録可

(6) 芸術学部 美術学科 日本画専攻

免許種：中学校教諭一種免許状（美術）、高等学校教諭一種免許状（美術）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する開設授業科目		中 一 種 免	高 一 種 免	備 考	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数				
教科に 関する 専門的 事項	絵 画 (映像メディア 表現を含む。)	中一種免 28単位	日本画実習ⅠA	4	○	○	※中学校教諭一種免 許状を「中一種免」、 高等学校教諭一種免 許状を「高一種免」 で表示	
			日本画実習ⅠB	4	○	○		
			日本画実習ⅡA	6	○	○		
			日本画実習ⅡB	4	○	○		
			日本画実習ⅢA	6	○	○		
			日本画実習ⅢB	4	○	○		
			日本画実習Ⅳ	10	○	○		
			デッサン実習Ⅰ	2	○	○		
			デッサン実習Ⅱ	2	○	○		
			デッサン実習Ⅲ	2	○	○		
			材料実習Ⅰ	2	○	○		
			材料実習Ⅱ（金属材料）	2	○	○		
			材料実習Ⅲ	2	○	○		
			絵画論演習	2	○	○		
			技法演習（裏打技法）	2	○	○		
	彫 刻	中一種免 28単位	彫塑演習	2	○	○	※免許取得における 必修科目を「○」、選 択科目を「●」で表示。 (卒業要件における必 修・選択・自由の区 分については、教育 課程表（7ページから 39ページ）を参照す ること。） ※最低修得単位数を 超えて修得した単位 は、「大学が独自に設 定する科目」の単位 数に算入することが できる。	
			デ ザ イ ン (映像メディア 表現を含む。)	構成演習Ⅰ（平面）	2	○		○
				構成演習Ⅱ（平面）	1	○		○
	構成実習（平面）	2		○	○			
	美術理論・美術史 (鑑賞並びに日本の 伝統美術及びアジ アの美術を含む。)	高一種免 24単位	美学Ⅰ	2	○	○		
			美学Ⅱ	2	○	○		
			日本美術史Ⅰ	2	○	○		
			日本美術史Ⅱ	2	○	○		
			東洋美術史Ⅰ	2	○	○		
			東洋美術史Ⅱ	2	○	○		
			西洋美術史Ⅰ	2	○	○		
			西洋美術史Ⅱ	2	○	○		
			美術解剖学Ⅰ	2	●	●		
			美術解剖学Ⅱ	2	●	●		
	工 芸	高一種免 24単位	材料技法演習（木工）	1	●	／		
			材料技法演習（塗装）	1	●	／		
			工芸制作A（演習）	2	○	／		
			教科教育法（美術）AⅠ	2	○	●		
	各教科の指導法 (情報通信技術の 活用を含む。)		教科教育法（美術）AⅡ	2	○	●		
			教科教育法（美術）BⅠ	2	○	○		
			教科教育法（美術）BⅡ	2	○	○		

(7) 芸術学部 美術学科 油絵専攻

免許種：中学校教諭一種免許状（美術）、高等学校教諭一種免許状（美術）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する開設授業科目		中 一 種 免	高 一 種 免	備 考	
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単位 数				
教科に 関する 専門的 事項	絵 画 (映像メディア 表現を含む。)	中一種免 28単位	油絵基礎演習	2	○	○	※中学校教諭一種免 許状を「中一種免」、 高等学校教諭一種免 許状を「高一種免」 で表示	
			油絵実習Ⅰ	4	○	○		
			油絵実習Ⅱ A	5	○	○		
			油絵実習Ⅱ B	2	○	○		
			油絵実習Ⅲ A	6	○	○		
			油絵実習Ⅲ B	6	○	○		
			油絵実習Ⅳ A	6	○	○		
			油絵実習Ⅳ B	6	○	○		
			デッサン実習Ⅰ	4	○	○		
			デッサン実習Ⅱ	2	○	○		
			デッサン実習Ⅲ	2	○	○		
			版画制作実習Ⅰ	2	○	○		
			版画制作実習Ⅱ	3	○	○		
	彫 刻	中一種免 28単位	彫塑演習	2	○	○		※免許取得における 必修科目を「○」、選 択科目を「●」で表示。 (卒業要件における必 修・選択・自由の区 分については、教育 課程表（7ページから 39ページ）を参照す ること。）
			構成演習Ⅰ	2	○	○		
	構成演習Ⅱ		2	○	○			
	デ ザ イ ン (映像メディア 表現を含む。)	中一種免 28単位	構成演習Ⅲ	2	○	○	※最低修得単位数を 超えて修得した単位 は、「大学が独自に設 定する科目」の単位 数に算入することが できる。	
			美学Ⅰ	2	○	○		
			美学Ⅱ	2	○	○		
	美術理論・美術史 (鑑賞並びに日本の 伝統美術及びアジア の美術を含む。)	高一種免 24単位	日本美術史Ⅰ	2	○	○		
			日本美術史Ⅱ	2	○	○		
			東洋美術史Ⅰ	2	○	○		
			東洋美術史Ⅱ	2	○	○		
			西洋美術史Ⅰ	2	○	○		
			西洋美術史Ⅱ	2	○	○		
			美術解剖学Ⅰ	2	●	●		
			美術解剖学Ⅱ	2	●	●		
工 芸			高一種免 24単位	材料技法演習（木工）	1	●		
				材料技法演習（塗装）	1	●		
	工芸制作A（演習）	2		○				
各教科の指導法 (情報通信技術の 活用を含む。)	高一種免 24単位	教科教育法（美術）AⅠ	2	○	●			
		教科教育法（美術）AⅡ	2	○	●			
		教科教育法（美術）BⅠ	2	○	○			
		教科教育法（美術）BⅡ	2	○	○			

(8) 芸術学部 美術学科 彫刻専攻

免許種：中学校教諭一種免許状（美術）、高等学校教諭一種免許状（美術）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する開設授業科目		中 一 種 免	高 一 種 免	備 考
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数			
教 科 に 関 す る 専 門 的 事 項	絵 画 (映像メディア 表現を含む。)	中一種免 28単位 高一種免 24単位	デッサン実習Ⅰ	2	○	○	※中学校教諭一種免 許状を「中一種免」、 高等学校教諭一種免 許状を「高一種免」 で表示
			デッサン実習Ⅱ	2	○	○	
			デッサン実習Ⅲ	2	○	○	
	彫 刻		彫刻実習Ⅰ	8	○	○	
			彫刻実習ⅡA	6	○	○	
			彫刻実習ⅡB	4	○	○	
			彫刻実習ⅢA	6	○	○	
			彫刻実習ⅢB	4	○	○	
			彫刻実習Ⅳ	10	○	○	
			彫刻論（古典研究を含む。)	2	○	○	
	デ ザ イン (映像メディア 表現を含む。)		構成演習Ⅰ	2	○	○	※免許取得における 必修科目を「○」、選 択科目を「●」で表示。 (卒業要件における必 修・選択・自由の区 分については、教育 課程表（7ページから 39ページ）を参照す ること。)
			構成実習Ⅱ（平面・立体)	2	○	○	
			構成実習Ⅲ（立体)	2	○	○	
	美術理論・美術史 (鑑賞並びに日本の 伝統美術及びアジ アの美術を含む。)		美学Ⅰ	2	○	○	
			美学Ⅱ	2	○	○	
			日本美術史Ⅰ	2	○	○	
			日本美術史Ⅱ	2	○	○	
			東洋美術史Ⅰ	2	○	○	
			東洋美術史Ⅱ	2	○	○	
			西洋美術史Ⅰ	2	○	○	
			西洋美術史Ⅱ	2	○	○	
	工 芸		美術解剖学Ⅰ	2	●	●	※最低修得単位数を 超えて修得した単位 は、「大学が独自に設 定する科目」の単位 数に算入することが できる。
			美術解剖学Ⅱ	2	●	●	
			実材制作基礎演習（工芸制作を含む。)	4	○	△	
			実材制作実習Ⅰ	2	○	△	
			実材制作実習Ⅱ	2	○	△	
材料技法演習（木工)		1	●	△			
材料技法演習（塗装)		1	●	△			
工芸制作A（演習)		2	●	△			
各 教 科 の 指 導 法 (情報通信技術の 活用を含む。)		教科教育法（美術）AⅠ	2	○	●		
		教科教育法（美術）AⅡ	2	○	●		
	教科教育法（美術）BⅠ	2	○	○			
	教科教育法（美術）BⅡ	2	○	○			

(9) 芸術学部 デザイン工芸学科

①免許種：中学校教諭一種免許状（美術）、高等学校教諭一種免許状（美術）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する開設授業科目		中 一 種 免	高 一 種 免	備 考
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数			
教科に 関する 専門的 事項	絵 画 (映像メディア 表現を含む。)	中一種免 28単位 高一種免 24単位	描出演習Ⅰ	2	○	○	※中学校教諭一種免許状を「中一種免」、 高等学校教諭一種免許状を「高一種免」 で表示
			描出演習Ⅱ	2	○	○	
	彫 刻		形体演習Ⅰ	2	○	○	
			形体演習Ⅱ	2	○	○	
	デ ザ イ ン (映像メディア 表現を含む。)		造形実習Ⅰ A	4	○	○	
			造形実習Ⅰ B	4	○	○	
			造形実習Ⅲ B	6	○	○	
	美術理論・美術史 (鑑賞並びに日本の 伝統美術及びアジアの美術を含む。)		美学Ⅰ	2	○	○	※免許取得における 必修科目を「○」、選 択科目を「●」で表示。 (卒業要件における必修・選択・自由の区分については、教育 課程表（7ページから 39ページ）を参照すること。)
			美学Ⅱ	2	○	○	
			日本美術史Ⅰ	2	○	○	
			日本美術史Ⅱ	2	○	○	
			東洋美術史Ⅰ	2	○	○	
			東洋美術史Ⅱ	2	○	○	
			西洋美術史Ⅰ	2	○	○	
			西洋美術史Ⅱ	2	○	○	
			美術解剖学Ⅰ	2	●	●	
			美術解剖学Ⅱ	2	●	●	
	工 芸		造形実習Ⅱ A	6	○	△	※最低修得単位数を 超えて修得した単位 は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入することができる。
			造形実習Ⅱ B	6	○	△	
			造形実習Ⅲ A	6	○	△	
			造形研究（演習）	12	○	△	
			材料技法演習（木工）	1	●	△	
			材料技法演習（塗装）	1	●	△	
			工芸制作 B（演習）	2	●	△	
			教科教育法（美術） AⅠ	2	○	●	
教科教育法（美術） AⅡ			2	○	●		
教科教育法（美術） BⅠ			2	○	○		
教科教育法（美術） BⅡ	2		○	○			
各教科の指導法 (情報通信技術の 活用を含む。)							

②免許種：高等学校教諭一種免許状（工芸）

免許法施行規則に定める 科目区分等			左記に対応する開設授業科目		必修・ 選択の 別	備 考
科目 区分	各科目に 含めることが 必要な事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数		
教科に 関する 専門的 事項	図 法 ・ 製 図	24単位	図法及び製図	2	○	※免許取得における 必修科目を「○」、選 択科目を「●」で表示。 (卒業要件における必 修・選択・自由の区 分については、教育 課程表（7ページから 39ページ）を参照す ること。） ※最低修得単位数を 超えて修得した単位 は、「大学が独自に設 定する科目」の単位 数に算入することが できる。
	デ ザ イ ン		造形実習Ⅰ A	4	○	
			造形実習Ⅰ B	4	○	
			造形実習Ⅲ A	6	○	
			造形実習Ⅲ B	6	○	
	工 芸 制 作 (プロダクト制作 を含む。)		造形実習Ⅱ A	6	○	
			造形実習Ⅱ B	6	○	
			造形研究（演習）	12	○	
			工芸制作 B（演習）	2	○	
	工 芸 理 論 ・ デザイン理論・ 美 術 史 (鑑賞並びに日本の 伝統工芸及びアジ アの工芸を含む。)		工芸概論	2	○	
			デザイン概論	2	○	
			色彩論	2	●	
			現代美術論	2	●	
			工芸材料概説	2	●	
			日本美術史Ⅰ	2	○	
			日本美術史Ⅱ	2	○	
			東洋美術史Ⅰ	2	○	
			東洋美術史Ⅱ	2	○	
			西洋美術史Ⅰ	2	○	
			西洋美術史Ⅱ	2	○	
			美術解剖学Ⅰ	2	●	
			美術解剖学Ⅱ	2	●	
各 教 科 の 指 導 法 (情報通信技術の 活用を含む。)			教科教育法（工芸）Ⅰ	2	○	
			教科教育法（工芸）Ⅱ	2	○	

2. 教育の基礎的理解に関する科目等

全学部・全免許種共通

- ・中学校教諭一種免許状を「中一種免」、高等学校教諭一種免許状を「高一種免」で表示
- ・免許状取得における必修科目を「○」、選択科目を「●」で表示

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			中 一 種 免	高 一 種 免
科目	各科目に含める必要事項	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数	開設年次 及び学期		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10単位	教育原理	2	2年・前期	○	○
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教師論	2	1年・後期	○	○
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育経営学	2	3年・前期	○	○
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	2年・後期	○	○
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	1	3年・第1ターム(前期)	○	○
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	1	2年・第3ターム(後期)	○	○
生徒指導、総合的な学習の時間等の指導法及び道徳、総合的な学習の時間等の指導法に関する科目	道徳の理論及び指導法	中一種免 10単位	道徳教育論	2	2年・後期	○	○
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間論	1	2年・第4ターム(後期)	○	○
	特別活動の指導法		特別活動論	1	3年・第2ターム(前期)	○	○
	教育の方法及び技術		教育方法・技術論	1	2年・第3ターム(後期)	○	○
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	高一種免 8単位	情報通信技術を活用した教育の理論	1	2年・第4ターム(後期)	○	○
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論	2	2年・前期	○	○
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談論	2	2年・前期	○	○
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法						
教育実践に関する科目	教育実習	中一種免 5単位	教育実習Ⅰ	3	4年次	○	○
		高一種免 3単位	教育実習Ⅱ	2	4年次	○	●
	教職実践演習	2単位	教職実践演習(中等) A	2	4年・後期	○	○
			教職実践演習(中等) B	2	4年・後期		
			教職実践演習(中等) C	2	4年・後期		

※高一種免において、最低修得単位数を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入することができる。

※「教育実習」は受講要件あり（56ページ参照）。

※教職実践演習について、国際学部の学生は教職実践演習（中等）Aを、情報科学部の学生は教職実践演習（中等）Bを、芸術学部の学生は教職実践演習（中等）Cを履修すること。

3. 大学が独自に設定する科目

全学部・全免許種共通

- ・中学校教諭一種免許状を「中一種免」、高等学校教諭一種免許状を「高一種免」で表示
- ・免許状取得における選択科目を「●」で表示（必修科目なし）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設授業科目			中 一 種 免	高 一 種 免	備 考
科目区分	最低修得 単位数	授業科目名	単 位 数	開設年次 及び学期			
大学が独自に 設定する科目	中一種免 4単位	学校インターンシップ	2	2～4年次	●	●	国際学部、芸術学部のみ履修可
	高一種免 12単位	教職特講	2	3年・後期	●	●	
		道德教育論	2	2年・後期		●	

※「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」において、最低修得単位数を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」に算入することができる。

4. 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

全学部・全免許種共通

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する 開設授業科目の名称	単 位 数	開設年次 及び学期	備 考
科目区分	最低修得 単位数				
日本国憲法	2	法学（日本国憲法）	2	1・2年 前後期	学部により履修学期が異なる 前期：国際学部 後期：情報科学部 芸術学部
体 育	2	健康科学	2	1年・前期	左記の3科目から 2単位以上
		体育実技Ⅰ	1	1年・前期	
		体育実技Ⅱ	1	1年・後期	
外国語コミュニケーション	2	CALL英語集中Ⅰ	1	1年・前期	国際学部
		CALL英語集中Ⅱ	1	1年・後期	
		英語応用演習Ⅰ	1	1年・前期	
		英語応用演習Ⅱ	1	1年・後期	
		eラーニング英語Ⅰ	1	1年・前期	情報科学部
		eラーニング英語Ⅱ	1	1年・後期	
		eラーニング英語Ⅲ	1	2年・前期	
		eラーニング英語Ⅳ	1	2年・後期	
		英語応用演習Ⅰ	1	1年・前期	芸術学部
		英語応用演習Ⅱ	1	1年・後期	
		CALL英語集中Ⅰ	1	1年・前期	
		CALL英語集中Ⅱ	1	1年・後期	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報活用基礎	2	1年・前期	

学芸員資格取得関係科目表

博物館法に定める必修 選択の別及び科目の名称		本学が開講する 授業科目の名称	単 位 数	開設年次 及び学期	備 考
必修科目 (注1)	生涯学習概論	生涯学習概論	2	1年・後期	3年次末までに単位修得のこと
	博物館教育論	博物館教育論	2	2年・前期	
	博物館資料論	博物館資料論	2	2年・後期	
	博物館概論	博物館概論	2	3年・前期	3年次末までに全て受講し、6単位以上修得すること (ただし成績評価が欠席を原因とした「不可」の場合は、受講したと見なされません。)
	博物館経営論	博物館経営論	2	3年・後期	
	博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	3年・後期	
	博物館展示論	博物館展示論	2	3年・後期	
	博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2	3年・後期	
	博物館実習	博物館実習 (注3)	3	4年次	上記の条件をすべて満たして履修すること
選択科目A (注2)		日本美術史Ⅰ	2	3年・前期	最低修得単位数 8 単位
		日本美術史Ⅱ	2	3年・後期	
		東洋美術史Ⅰ	2	3年・前期	
		東洋美術史Ⅱ	2	3年・後期	
		西洋美術史Ⅰ	2	2年・前期	
		西洋美術史Ⅱ	2	2年・後期	
選択科目B (注2)		コンピュータ・アート	2	2年・後期	最低修得単位数 2 単位
		工芸概論	2	1年・前期	
		現代美術論	2	3年・後期	
		工芸材料概説	2	2年・前期	

(注1) 必修科目を、国際学部が履修するためには、「他学部履修」の手続きを行う必要があります。

ただし、「生涯学習概論」については、国際学部の学生は学部専門科目（公共政策・NPOプログラム）の選択科目として履修してください。

(注2) 選択科目の内、「コンピュータ・アート」以外は芸術学部の専門教育科目であるため、国際学部の学生が履修するためには、「他学部履修」の手続きを行う必要があります。

(注3) 4年次における「博物館実習」は、学芸員養成課程の最終段階における科目であり、関係科目で学んだ知識・技術や理論を活かして学修するものです。

したがって、「博物館実習」を履修するためには、3年次末までに上表「必修科目」の「備考」欄に記載した条件を、いずれも満たす必要があります。

資格

教員を目指す人

教育職員免許状の取得を希望する人は、本学を卒業するために必要な単位を修得し、かつ、教育職員免許法の定めるところにより所定の単位を修得する必要があります。また、教職課程を履修するためには、履修登録の際に毎回教職課程登録をしなければなりません。

1 免許状の種類

本学で取得できる免許状の種類は、次のとおりです。

学 部	学 科	免許状の種類
国 際 学 部	国際学科	中学校教諭 一種免許状 (英語) 高等学校教諭 一種免許状 (英語)
情報科学部	情報工学科 知能工学科 システム工学科	高等学校教諭 一種免許状 (数学) 高等学校教諭 一種免許状 (情報)
	医用情報科学科	高等学校教諭 一種免許状 (情報)
芸 術 学 部	美術学科 日本画専攻 油絵専攻 彫刻専攻	中学校教諭 一種免許状 (美術) 高等学校教諭 一種免許状 (美術)
	デザイン工芸学科	中学校教諭 一種免許状 (美術) 高等学校教諭 一種免許状 (美術) 高等学校教諭 一種免許状 (工芸)

2 履修科目

「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「大学が独自に設定する科目」から合計59単位以上修得するとともに、「教職免許法施行規則第66条の6に定める科目」から所定の単位を修得する必要があります。

詳細については2年次にガイダンス等で説明があります。

科目区分 【参照ページ】	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
①教科及び教科の指導法に関する科目 【40～52ページ】	28単位以上	24単位以上
②教育の基礎的理解に関する科目等 【53ページ】	27単位以上	23単位以上
③大学が独自に設定する科目 (注) 【54ページ】	4単位以上	12単位以上
④教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 【54ページ】	法学 (日本国憲法) 2単位ほか	
⑤介護等体験 (7日間)	必要	不要

(注) ①、②で最低必要単位数を超えて修得した単位は、③の大学が独自に設定する科目の単位数に算入することができます。

3 教育実習受講条件

4年次に教育実習を受講するためには、3年次末までに以下の条件を満たす必要があります。

科目区分	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
教科及び教科の指導法に関する科目	実習教科の「教科教育法」を含む18単位以上修得	実習教科の「教科教育法」を含む20単位以上修得
教育の基礎的理解に関する科目等	「教師論」、「教育原理」を含む12単位以上修得	「教師論」、「教育原理」を含む10単位以上修得

4 今後のスケジュール

時期 (年次)	行 事	内 容
1年次(2024年)以降毎年度前期及び後期	教職課程登録	・履修登録期限までに登録
2025年度後期(2年次)	履修カルテガイダンス	・履修カルテの説明・受取 ※3年次、4年次にも教職科目講義中に適宜ガイダンスが行われる
2026年1月～2月(2年次)	介護等体験 学内事前指導 教育実習 事前指導①	・介護等体験申込 ・外部講師による講演 ・教育実習の内諾申込の方法説明
2026年4月(3年次)	介護等体験ガイダンス	・申込書、学生個人票の記入 ・体験費用の納入
2026年5月(3年次)	介護等体験合同事前指導	・広島地区大学合同事前指導
2026年7月～8月(3年次)	介護等体験直前指導	・外部講師による講演
2026年5月～8月末(3年次)	教育実習校へ内諾申込	・各自母校を訪問し、教育実習申込
2026年6月～2027年1月(3年次)	介護等体験	・特別支援学校(2日間)及び社会福祉施設(5日間)での介護等体験
2027年4月(4年次)	教育実習事前指導②	・教育実習簿の受取 ・教育実習費の納入
2027年5月～(4年次)	教育実習	・2週間又は3週間の教育実習
2027年10月(4年次)	教員免許状申請説明会 教育実習事後指導	・申請方法の説明

学芸員を目指す人

本学を卒業するために必要な単位を修得し、かつ、博物館法に定めるところにより所定の単位を修得すれば、学芸員として、美術館等へ採用される資格を取得できます。

学芸員資格取得関係科目については、55ページを参照してください。

○ 博物館実習受講条件

4年次における「博物館実習」は、学芸員養成課程の最終段階における科目であり、関係科目で学んだ知識・技術や理論を活かして学修するものです。

したがって、「博物館実習」を履修するためには、3年次末までに次の1、2の条件をいずれも満たす必要があります。

（【 】は標準の履修時期です。）

- 1 下記の必修3科目について、全て単位修得していること。

「生涯学習概論」 2単位 【1年後期】

「博物館教育論」 2単位 【2年前期】

「博物館資料論」 2単位 【2年後期】

- 2 下記の必修5科目について、全て受講し、6単位以上修得していること。（ただし成績評価が欠席を原因とした「不可」の場合は、受講したと見なされません。）

「博物館概論」 2単位 【3年前期】

「博物館展示論」 2単位 【3年後期】

「博物館経営論」 2単位 【3年後期】

「博物館資料保存論」 2単位 【3年後期】

「博物館情報・メディア論」 2単位 【3年後期】

公務員を目指す人

公務員を目指す人には、毎年夏季休業期間中（9月下旬）に専門教科を中心とした公務員試験対策セミナーを開催しています。

これは公務員試験科目についての講義を5日間集中して実施するものです。

